

平成28年度
全国学力・学習状況調査
鹿児島県結果分析

市町村別の調査結果



平成28年10月
鹿児島県教育委員会

市町村別の調査結果

正答率分布グラフについて

※ グラフは、児童生徒の正答率分布グラフです。

※ 横軸は、正答率を5段階に分けて示しています。

1 : 0%～20%未満, 2 : 20%～40%未満, 3 : 40%～60%未満,
4 : 60%～80%未満, 5 : 80%～100%

※ 縦軸は、各段階の児童生徒数の割合を示しています。

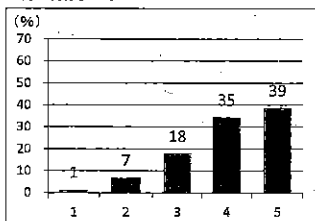
※ ただし、正答者数を四捨五入して割合（整数値）としているため、若干の誤差が生じています。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ、課題、改善策)

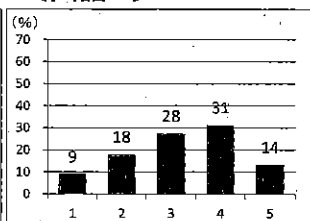
鹿児島市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

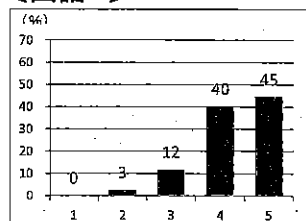


〈課題〉

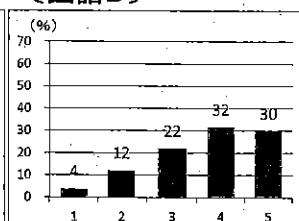
- ・ 5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は74%、B問題は45%であることから、基礎・基本は定着している状況であるが、活用する力は不十分である。
- ・ 登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉えることに課題がある。
- ・ 活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉えることに課題がある。

【中学校】

〔国語A〕



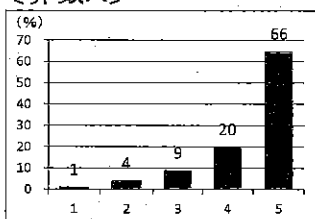
〔国語B〕



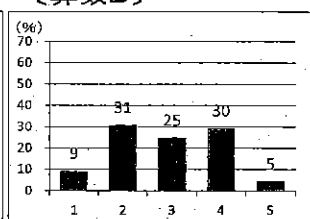
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は85%、B問題は62%であることから、基礎・基本が定着している状況であるが、活用する力は不十分である。
- ・ 文の成分の照応について理解することに課題がある。
- ・ 話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較することに課題がある。

〔算数A〕



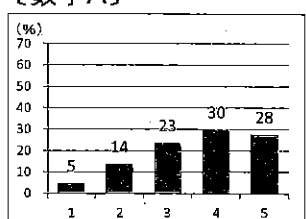
〔算数B〕



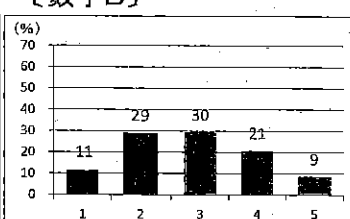
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は86%であり基礎・基本は定着しているが、B問題の4、5段階は35%、2、3段階は56%であり、中・下位層の活用する力を伸ばしていくことが課題である。
- ・ 加減乗除の意味について、それぞれの特徴・性質を比較し整理しながら、理解することに課題がある。
- ・ グラフや図、表等から読み取り判断したことについて、根拠となる数値や事実に基づいて説明することに課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、A問題は1、2段階は19%、B問題は1～3段階は70%であることから、基礎・基本及び活用する力ともに十分定着していない。
- ・ 文字を用いて表した数量の関係や法則などを式に表現したり、式の意味を読み取ったりすることに課題がある。
- ・ 証明するに当たり、図形の性質を三角形の合同条件などを基にして確かめ、根拠とするものを適切に選択しながら論理的に考察し表現することに課題がある。

【改善策】

今後、本市の学力向上施策(『確かな学力』の育成)のうち、以下に示す事項について、重点として取り組んでいく。

- 「市中学校かごしま学力向上プログラム」の拠点校・推進校の支援や指導・助言、管理職研修会、教科別研修会等を充実させ「分かる・できる」授業づくりを通して教職員の指導力向上を図る。
- 全国学力・学習状況調査結果分析を各学校へ情報提供し、授業改善や個に応じた指導の充実を図らせるなど、各学校でPDCAサイクルの充実がなされるよう、見届けまで確実に指導を行う。
- 全国学力・学習状況調査や「かごしま学力向上Webシステム」の問題等を各学校の指導計画に位置付けさせるなど、具体的な活用がなされるよう支援や指導・助言を行う。

また、各学校の学力向上策のうち、以下の内容を特に重点的に取り組むよう指導する。

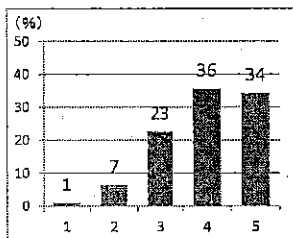
- 〔小学校〕(国語科) ・ 人物像に結び付く叙述に注目して、教科書に線を引いたり、人物像について話し合ったりする活動の充実
 - ・ 報告文等について、目的や意図に応じて書く事柄を収集し、整理したり、書いたものを発表し合い表現の仕方に着目して助言し合ったりする活動の充実
- (算数科) ・ 学習した計算方法と既習した加減乗除の計算方法を比較し、図や半具体物の操作と関連付けながら理解させる指導の工夫
 - ・ 結論を導くために、筋道を立てて考えたり、振り返って考えたりする学習の充実
- 〔中学校〕(国語科) ・ 文中における文の成分の順序や照応、文の構成などについて考える活動の工夫
 - ・ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、自分の考えを広げる話し合い活動の工夫
- (数学科) ・ 図形や関数の指導においては、図やグラフなどから分かることを読み取り、話し合ったり説明したりするなど論理的に考える活動の工夫
 - ・ 日常的な事象等を数値化することや問題解決のための構想を立て実践すること、他の事象との関係を捉えることなどの「数学的プロセス」を重視した指導の充実
- 〔全 体〕 ・ 「まとめ」に対応した問題解決的な「めあて」を設定する授業設計の徹底
 - ・ 「思考を促す発問」、「自分の考えに基づく話し合い活動」、「思考過程が分かる板書」に関連付けた指導の工夫による思考力・判断力・表現力の育成
 - ・ 調べたり文章を書いたりするなどの授業と関連をもたせた家庭学習の充実(特に言語活動の充実を図るための家庭学習の工夫)
 - ・ 他者の話を聞く態度など学習態度の育成

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

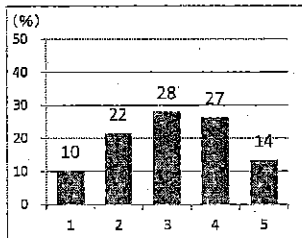
日置市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

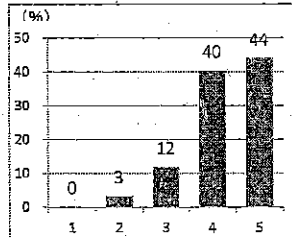


〈課題〉

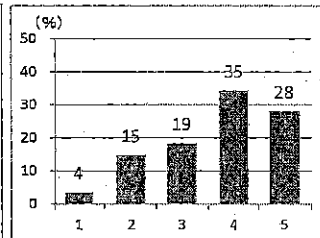
- ・5段階の分布状況について、国語Aにおいては4・5段階の割合が高く、基礎的・基本的事項について指導の充実が図られていることが分かる。しかし、国語Bにおいては、1・2段階の割合が高く、個人差も大きい傾向が見られる。
- ・特にローマ字の確実な定着が必要である。
- ・グラフを基に分かったことを的確に書いたり、目的に応じて本や文章を比べて読みだすことに課題が見られる。

【中学校】

〔国語A〕



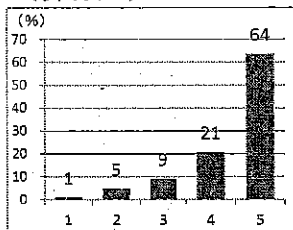
〔国語B〕



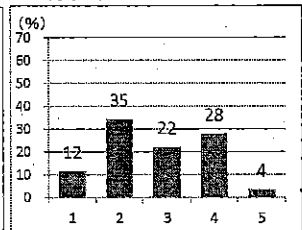
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、国語Aにおいて4・5段階の割合が高いが、1～3段階の分布も見られる。国語Bは、無回答をなくす等、個人差に対応した指導による底上げが必要である。
- ・目的に応じて資料を効果的に活用して話すことに課題が見られる。
- ・本や文章から必要な情報を読み取ったり、根拠を明確にして自分の考えを書いたりする指導の充実が必要である。

〔算数A〕



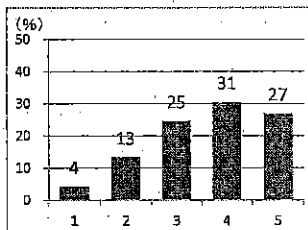
〔算数B〕



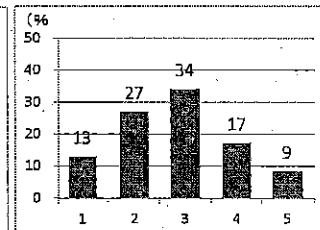
〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、A問題の5段階の割合が高いことから基礎的・基本的事項は身に付いているが、B問題では特に2段階の割合が高く、個人差も大きい傾向が見られ、活用力に課題が見られる。
- ・示された条件を基に同じきまりが他にも成り立つか考えたり、グラフを読み取り、それを根拠に示された事柄が正しくない理由を記述したりすることに課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、数学A・Bともに1～3段階への分布も見られることから、定着の不十分な生徒へのきめ細かな指導が必要である。数学Bは下位層の割合が高く、上位層の割合が低いことから、上位層の伸び悩みの傾向が見られる。
- ・自然数の意味理解や与えられた情報から必要な情報を選択して処理したり、筋道を立てて証明をしたりすることに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。

○「のびゆくひおき子Ⅱ」で、学びの系統性・連続性を重視した指導法改善、児童生徒が課題解決に向けて能動的に学びを深めていくための授業づくり、家庭や地域と連携した読書活動の推進などに取り組んでいく。

また、以下の事項を管理職研修会や教務主任研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。

〔小学校〕

〔国語科〕

・漢字やローマ字等の基礎的・基本的な内容についての定期的な繰り返し指導や、日常的に活用できる場を意図的に設定するなどした確実な定着を図る指導の充実

・自分の考えをまとめて書き、学び合いにより互いの意見を聞き合う授業の充実

・読書活動の充実を図るとともに、単元を貫く言語活動を位置付けた指導の充実

〔算数科〕

・基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る指導の充実

・見通しをもち、筋道を立てて問題を解決したり振り返ったりする学習活動の充実

・学んだ知識やきまりを使って、他の問題に適用し解決していく学習活動の充実

〔中学校〕

〔国語科〕

・目的に応じて資料を効果的に活用して話す学習活動の充実

・本や文章から必要な情報を読み取ったり、根拠を明確にして自分の考えを書いたりする学習活動の充実

〔数学科〕

・自然数の意味理解など基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る個に応じたきめ細かな指導の充実

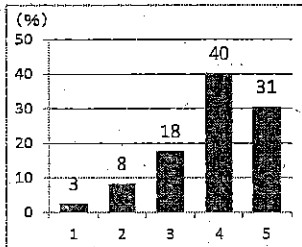
・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する学習活動の充実

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

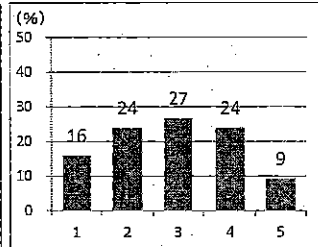
いちき串木野市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

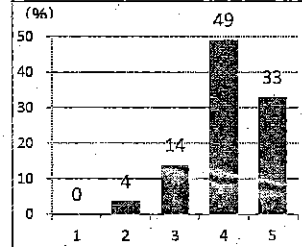


〈課題〉

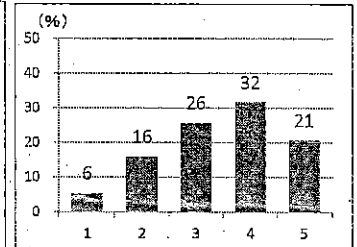
- ・5段階の分布状況については、国語Aと比較して国語Bで「5」「4」の層が少なく、思考や活用する力について、定着が十分でない状況にあると言える。
- ・思考や活用する力を伸ばす指導のさらなる充実が求められる。
- ・内容における主な課題は次のとおりである。
質問の意図を捉える。話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する。本文の内容について問われたことに対し、適切なものを選択して答える。

【中学校】

〔国語A〕



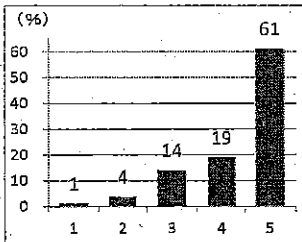
〔国語B〕



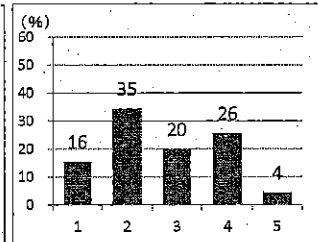
〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、国語Bにおいて「4」及び「5」の層の合計が52.6%との結果が見られ、思考や活用する力について、一定の定着が図られている状況にあると言える。
- ・思考や活用する力を伸ばす指導のさらなる充実が求められる。
- ・内容における主な課題は次のとおりである。
文章の中心的部分と付加的部分とを読み分け、要旨を捉える。目的に応じて文章を要約する。

〔算数A〕



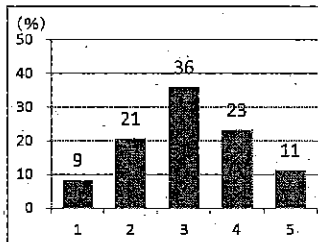
〔算数B〕



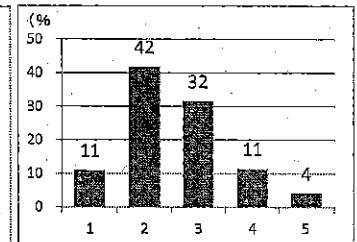
〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、算数Aと比較して算数Bで下位層が多い傾向が見られ、活用力が十分でない状況にあると言える。
- ・思考や活用する力を伸ばす指導の充実が求められる。
- ・内容における主な課題は次のとおりである。
示された式に数値を当てはめて解を求める。乗法や除法の式の意味を理解する。グラフから指示された数を読み取り、それを根拠に示された事柄が正しくない理由を述べる。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況では数学Aと比べ数学Bで下位層が多い傾向が見られ、活用する力が十分でない状況にあると言える。
- ・思考や活用する力を伸ばす指導の充実が求められる。
- ・内容における主な課題は次のとおりである。
与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現する。加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明する。筋道立てて考え、証明する。

【改善策】

○ 今後、以下に示す事項について、本市の学力向上策の重点として取り組んでいく。

〔全体〕(各教科)・ 追究する課題を明らかにして、児童生徒が主体的・意欲的に臨む授業の実践に努める。
・ 個別の課題追究の時間の確保や、個別の補充学習等、個に応じた指導の充実を図る。

〔小学校〕(国語科)・ 話し手や書き手の意図を考え、問われていることに対して適切に答える活動の充実。

・ 目的に応じて話し合い、観点に沿った質問や意見交換をする指導の充実。

(算数科)・ 加減乗除の意味や式の意味等を考え説明する活動の充実。

・ グラフを適切に使い分けたり、数値の意味を踏まえて根拠をもとに説明する学習の充実。

〔中学校〕(国語科)・ 文章全体の構成を捉えて、要旨を捉える学習の充実。

・ 問われていることに対応する箇所を読み取り、適切に答える学習の充実。

(数学科)・ 証明したり根拠を基に説明したりするための、基礎的事項の確実な定着を図る指導の充実。

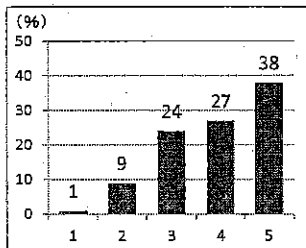
・ 必要な情報を取捨選択し、見通しを立てて証明する活動の充実。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

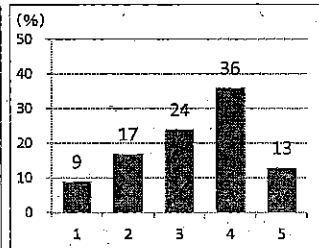
枕崎市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

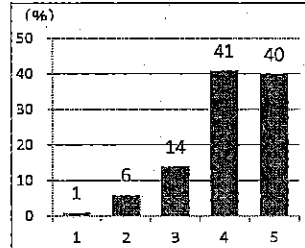


〈課題〉

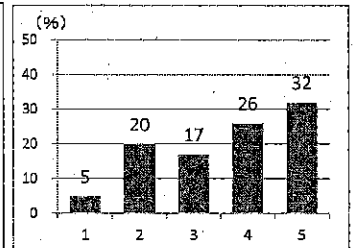
・5段階の分布状況では、A問題は4段階の割合が少なく、B問題では下位層の割合が多い。中位層をのばしていくことが必要である。
・目的や意図に応じて、グラフや表を基に、自分の考えを書いたり、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫したりすることに課題がある。

【中学校】

〔国語A〕



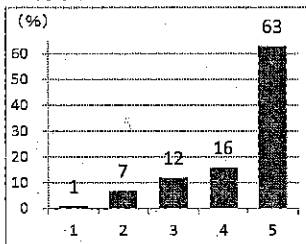
〔国語B〕



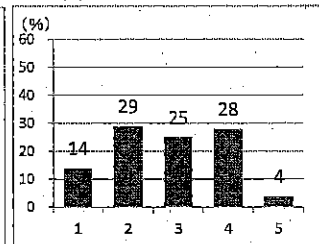
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は81%であるが、B問題では下位層の割合が多い。活用する力を付けていくことが課題である。
・本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ることに課題がある。

〔算数A〕



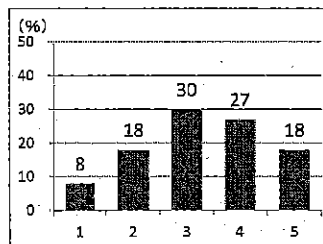
〔算数B〕



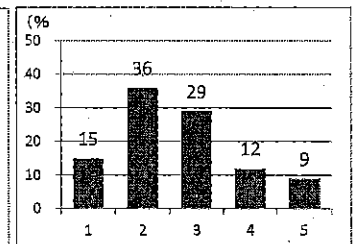
〈課題〉

・5段階の分布状況では、B問題の下位層の割合が多く、基礎・基本は、身に付いているが、それを活用する力が十分ではない。
・数量の関係を式に表したり、式と図を関連付けたりすることに課題がある。
・目的に応じて図形の性質を活用することに課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況から、A、B問題共に上位層が少ない。基礎・基本の定着を図りつつ、上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
・問題解決の方法や様々な課題の理由を数学的な表現を用いて説明する問題については、無解答率が高い。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。

- 分析の視点(経年変化、質問紙結果との相関など)を各学校に示し、課題の焦点化を図らせる。
- 小・中学校間で情報を共有させ、小中連携した改善策を講じさせる。
- 定着が不十分であった問題については、補充指導を徹底させたり、指導計画の見直しをしたりするなどの指導を行う。
- 拠点校における「授業サポートプロジェクト」や校内研究授業に、本市の指導主事が参加し、継続的な授業づくりの支援や指導・助言を行う。

また、以下の事項を、管理職研修会や学校訪問等で指導し、各学校で取り組ませる。

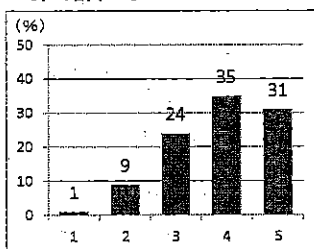
- 〔小学校〕(国語科) 図表やグラフなどから目的に応じて必要な情報を取り出し、比較したり、関連付けさせたりしながら自分の考えを明確にできるように助言する指導を行う。
(算数科) 日常生活の場面から必要感のある場面を取り上げ、数理的に捉えて問題を解決させる学習を充実させる。
- 〔中学校〕(国語科) 目的に応じて必要な情報を読み取り、根拠を明確にして説明し合う指導を行う。
(数学科) 様々な場面で事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明させる指導を行う。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

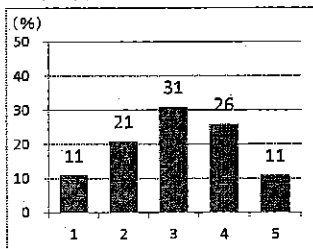
指宿市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

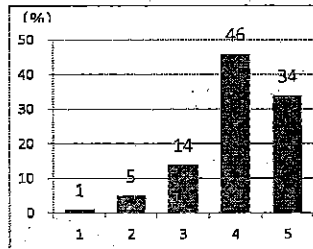


〈課題〉

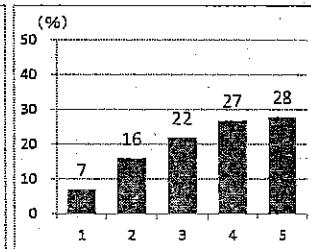
- ・国語Aにおいては、評定4と5の児童が70%を下回っており、基礎・基本の定着を図る必要がある。国語Bでは、評定3以下が60%以上になっており、下位層が多い。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことについての課題が見られる。
- ・ローマ字の発音や拗音の読み書きについて課題がある。
- ・意図や目的に応じて、自分の考えを整理したり、書いたりすることに課題がある。

【中学校】

〔国語A〕



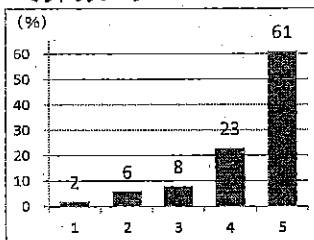
〔国語B〕



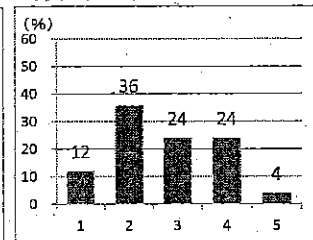
〈課題〉

- ・国語Aは、評定4と5の生徒が約80%であり定着が図られているが、国語Bになると、上位層が減り、下位層が増えている。
- ・文章の構成や話の展開について、自分の考えをもったり、比較したりすることに課題がある。
- ・文脈における語句の意味を理解することに課題がある。
- ・辞書を活用し、漢字の意味を正しく捉えることに課題がある。
- ・目的に応じて必要な情報を読み取ったり、文章を要約したりすることに課題がある。

〔算数A〕



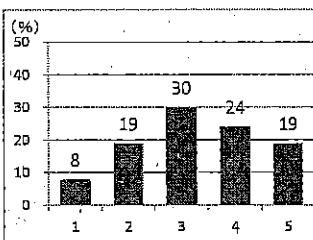
〔算数B〕



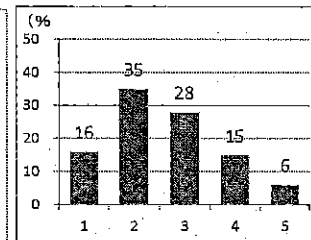
〈課題〉

- ・算数Aにおいては、評定4と5が80%を超えているが、算数Bでは、評定3以下が70%を超えている。特に評定2の割合が一番高い結果となっている。
- ・少数の除法の計算に課題がある。
- ・1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係の理解に課題がある。
- ・出した答えやグラフから読み取ったことから、理由を記述することに課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・数学Aにおいては、評定3がピークとなっており、基礎・基本の定着が必要である。数学Bは、評定1と2で50%を超えており下位層が多い。
- ・外角の和や合同条件、証明など、図形領域における知識・理解に課題がある。
- ・平面図形の運動から空間図形ができることへの理解に課題がある。
- ・反比例の関係や、関数を式で表すことに課題がある。
- ・導き出した答えを数学的に表現したり、説明したりすることに課題がある。

【改善策】

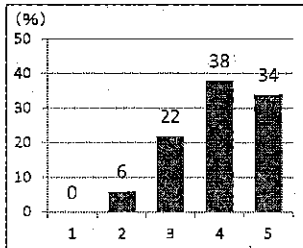
- 今後、以下の点に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
- 全国学力・学習状況調査の結果分析及び具体的な改善策について、全職員で共通理解・共通実践するように各学校に指導を徹底する。
 - 正答率の低い問題について分析し、「かごしま学力向上支援Webシステム」を活用して、指導法改善や補充指導の充実を図るように、各学校へ指導する。
 - 個に応じた学習指導を徹底するために、重点課題や改善策について保護者と共通理解し家庭学習の充実を図るように各学校へ指導する。また、以下の事項を、管理職研修会等で指導し、各学校に取り組ませる。
- 〔小学校〕〔国語〕
- ・漢字の習得においては、学習した漢字を日常生活を通して確実に習得することができるような機会を意図的・計画的に設定する。
 - ・漢字を正しく読んだり書いたりさせ、語彙を広げるために、国語科だけではなく他教科においても、辞書を積極的に活用させ、習慣化させる。
 - ・平仮名をローマ字で書いたり、ローマ字表記を正しく読んだりさせるために、他教科等でもパソコンを使用した学習を取り入れ、ローマ字表記にふれる機会を増やす。
- 〔小学校〕〔算数〕
- ・基礎的・基本的な計算技能の確実な定着を図るために、計算の仕方について考えたり、結果を確かめたりする活動を重視する。また、互いに説明し合う活動を取り入れ更なる定着を図る。
 - ・学習した計算を日常生活の中で活用することができるような機会を意図的・計画的に設定する。
 - ・少数の除法の計算において、除法の性質や既習の計算を活用して計算の仕方を考えさせるような指導を工夫する。
 - ・日常生活の事象を表やグラフで表すよさを実感させたり、解決したい問題について、資料収集や分類整理表やグラフに表すなどの活動を設定する。
- 〔中学校〕〔国語〕
- ・話すことに関して、聞き手の立場や考えを具体的に予想して内容を工夫したり、効果的に伝わるように構成を工夫したりする活動を設定する。
 - ・文脈における語句の意味を理解させるために、その語句のもつ一般的な意味と文脈における具体的、個別的な意味の比較させながら、より適切な言葉に置き換えさせるような学習を設定する。
 - ・話の内容や展開によって、自分の考えと比較させるために、ペアやグループでの活動を設定し、互いの主張や根拠を確かめるような活動を設定する。
- 〔中学校〕〔数学〕
- ・立体図形の構成や平行線や多角形の性質を理解させるために、具体物やパソコンを使い観察や操作をさせる場面を設定する。
 - ・証明の問題に関しては、結論から仮定、仮定から結論の両方から考えて証明する場面を設定する。
 - ・導き出した答えについて説明できるようにするために、処理の手順を数学的に考察する場面を設定し、過程を振り返る時間を設定する。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

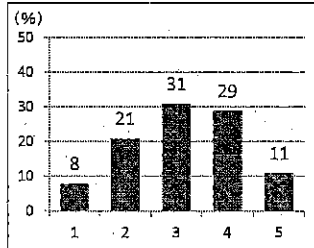
南さつま市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

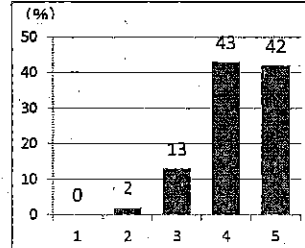


〈課題〉

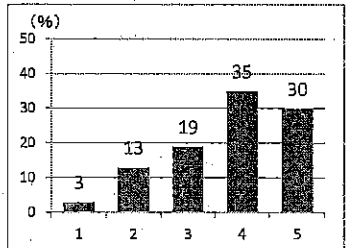
・5段階の分布状況について、A問題では、4、5段階の上位層が72%と多くなっているが、B問題では、上位層が30%に減り、2、3段階の中位層が52%と増えている。中位層の活用能力育成が課題である。
・A問題、B問題ともに、「話す・聞く」の領域の正答率が低い。話し手の意図を捉えることに課題がある。

【中学校】

〔国語A〕



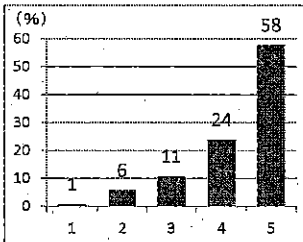
〔国語B〕



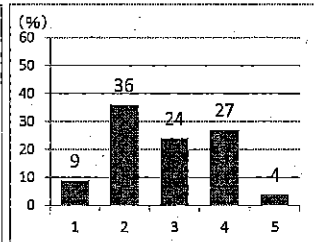
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題は4、5段階が85%であるが、B問題は65%であることから、基礎・基本は十分に身に付いているが、活用する力につながっていないことが課題である。
・文章の要旨を捉えたり、要約したりすることに課題が残されている。

〔算数A〕



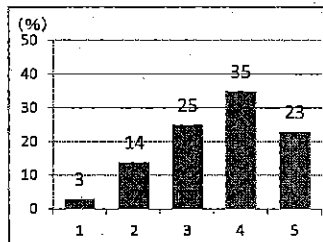
〔算数B〕



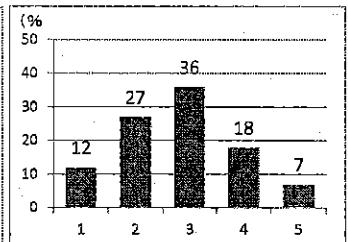
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題では、4、5段階が82%と基礎・基本は十分に身に付いているが、B問題の5段階は4%と大きく減っている。上位層の活用能力をどのように伸ばしていくかが課題である。
・示された式の中の数値の意味を理解し、言葉や数を用いて説明することに課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題では分布のピークが4段階にあるのに、B問題では分布のピークが3段階にある。活用する力は、全体的に伸ばしていく必要がある。
・数学的な結果を事象に即して解釈したり、問題解決の方法を数学的に説明したりすることに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。

- 学校訪問や研修会等を通して「アクティブ・ラーニングによる学びの改善」を指導し、児童生徒主体の能動的な学びの導入を図る。
- 土曜授業の「学びを深める日」や朝の活動等を活用し、理解が不十分な問題や発展的な問題への計画的な取組を指導していく。
- 「かごしま学力向上支援Webシステム」の単元別評価問題を、授業改善の評価と位置付け、積極的な活用を各学校に指導していく。

また、以下の事項を管理職研修会や教務主任研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。

〔小学校〕(国語科) 目的や意図に応じて、自分の考えをまとめたり発表したりする活動の積極的な導入。

(算数科) 式や解き方の意味を、図や言葉を使って説明し合う活動の時間の確保。

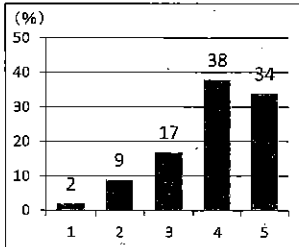
〔中学校〕(国語科) 目的に応じて文章の要旨を捉えたり、要約したりする指導の徹底。

(数学科) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明し合う活動の重視。

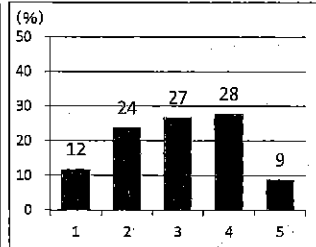
平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

南九州市教育委員会

【小学校】 〔国語A〕



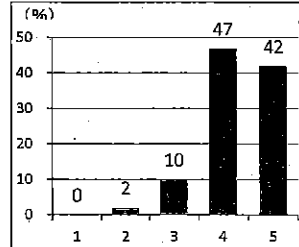
〔国語B〕



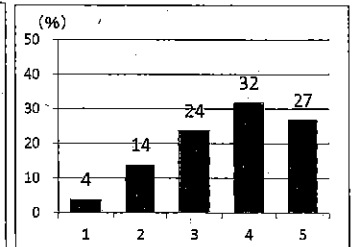
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は72%であるが、B問題では37%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は十分ではない。
・B問題では、目的や意図に応じて、表を基に自分の考えを書いたり、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを整理し、明確にしながらかいたりすることが課題である。また、B問題では、総じて無解答率が5%～11%と高い。

【中学校】 〔国語A〕



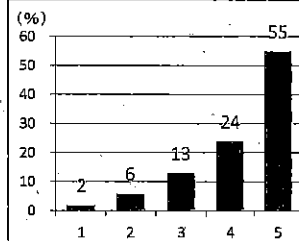
〔国語B〕



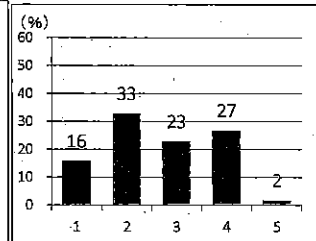
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は89%であるがB問題では59%である。基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は十分ではない。
・B問題では、文章の構成や表現の仕方について、自分の考えを具体的に書いたり、本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを述べたりすることに課題がある。特に、図鑑の説明を読み取る問題では無解答率が26%と高い。

〔算数A〕



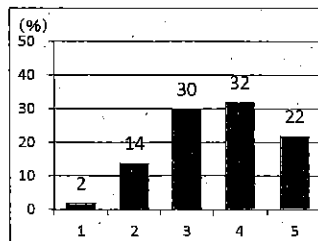
〔算数B〕



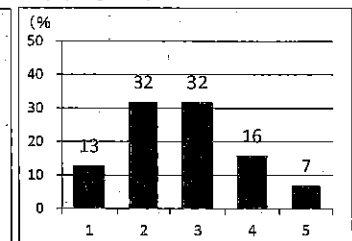
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は79%であるが、B問題では29%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は十分ではない。全13問中、5問以下の正答率が49%と非常に高い。
・示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述したり、図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断したりする力を身に付けることが課題である。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況から、数学Aは3・4段階の割合に差がなく合計で62%であり、数学Bは2・3段階の割合に差がなく合計で64%と多いことから、基礎・基本及び活用する力ともに十分定着していない。
・与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することが課題である。また、全体的に、数学的に表現する問題については、無解答率が高い。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り組んでいく。

- 1学期の市校長研修会で学力向上を目指した授業展開の具体的なポイント「南九州市スタンダード」の説明を行った。今後は、校内研修の充実を図り、各学校における「学力向上の研究」と関連させ、特に、問題解決型の「めあて」の提示と、「めあて」と「まとめ」の整合性のある授業が展開されているか等の見届けを行う。
- 市教頭研修会では、教頭を児童生徒に見立て、実際に、指導主事が模擬授業を行い、「南九州市スタンダード」のよさを実感させ、校内での指導ポイントを共通理解した。今後は、学習指導案作成段階で、本市の取組の趣旨が実践化されているかを、指導主事等が計画的に学校訪問を行うなど、授業づくりの支援や指導・助言を行う。
- 拠点校における「授業サポートプロジェクト」に、指導主事やコアティーチャーも一緒に参加して、継続的な学校訪問を通じた授業づくりの支援や指導・助言を行う。
- 特に中位層を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるために、「かごしま学力向上支援Webシステム」を積極的に活用するように、各学校への指導を徹底する。

また、以下の項目を、管理職研修会で指導し、各学校で取り組ませる。

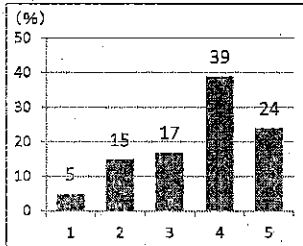
- 〔小学校〕(国語科)・新聞の活用を促し、記事に対する自分の考えを書かせたり、効果的な表現方法を考えさせたりする指導を行う。
(算数科)・数量や図形の意味、性質や問題解決の方法などを見付けたり、作り出したりする指導を充実させる。
- 〔中学校〕(国語科)・目的や状況に応じて資料を活用して説明したり、話し合ったりする学習活動を取り入れる。
(数学科)・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的思考方を基に、説明する活動の指導を行う。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

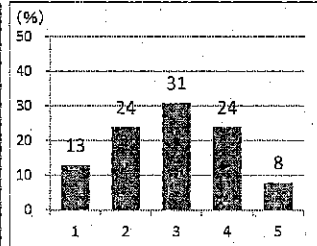
阿久根市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

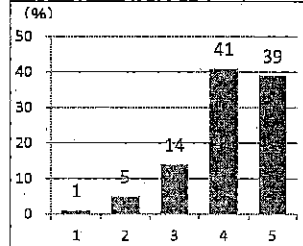


〈課題〉

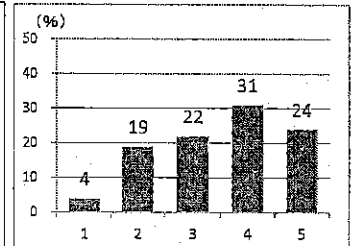
・5段階の分布状況を見ると、A問題では下位層と中位層が同程度の割合であり、B問題でも中位層の割合が低い。下位層の引き上げが大きな課題である。
・目的や意図に応じて書く内容を整理したり、表やグラフを基に自分の考えを書いたりすることに課題が見られる。

【中学校】

〔国語A〕



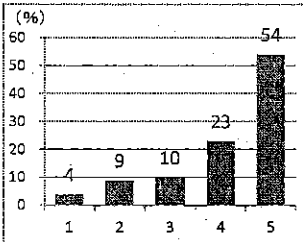
〔国語B〕



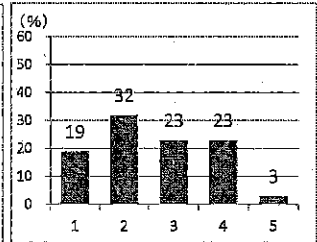
〈課題〉

・5段階の分布状況を見ると、A問題では4～5段階が8割となっているが、B問題では2～5段階の差がない。基礎・基本はある程度身に付いているものの、活用する力の育成が課題である。
・文章の構成を捉えたり、目的に応じて文章を要約したりすることに課題が見られる。

〔算数A〕



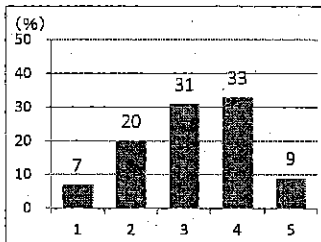
〔算数B〕



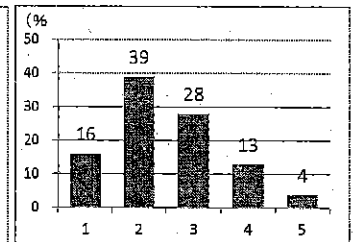
〈課題〉

・5段階の分布状況を見ると、A問題では5段階が半数を超えているが、B問題では下位層の割合が中・上位層よりも高い。下位層の引き上げと活用する力の育成が大きな課題である。
・算数Bにおいて、全国平均と比べて、特に無解答率が高い。根気強く問題の意味を読み取る力を育成する必要がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況から、A・B問題とも、他教科と比べて、下位層の割合が非常に高い。基礎・基本の定着を徹底させながら、活用する力を育んでいく必要がある。
・どの領域においても課題が見られるが、特に、「比例と反比例」、「証明」について全国平均との差が顕著である。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。

- 県の施策である「授業サポートプロジェクト」「かごしま学力向上支援Webシステム」に関する取組を積極的に推進していく。特に、「かごしま学力向上支援Webシステム」については、「活用する力の育成」と「上位層への対応」を図るためにも、積極的に活用するよう各学校に指導していく。
- 市全体の正答率が全国を大きく下回る問題、正答率が極端に低い問題について各学校に具体的に周知し、各校の実態と照らし合わせながら補充指導を行わせるなど、定着が不十分な内容に対する指導の充実を図る。
- 学力向上に関する各学校の取組について、その内容と進捗状況の確認を適宜行い、状況に応じた指導の徹底を図る。

また、以下の事項を、管理職研修会や学力向上連絡会、校内研修、教務主任等研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。

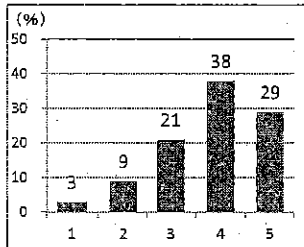
- 〔小学校〕(国語科) 指定された字数内で自分の考えを書く活動を、授業の中に適宜取り入れる。
 - (算数科) 結果の予想を立てた場合、導いた解と比較・検討させる場を必ず設定する。(解の妥当性の検証)
 - 〔中学校〕(国語科) 文や図表等、各種情報を横断的に読み取り、自分の考えを入れながらまとめる活動を重視する。
 - (数学科) 基本的な知識と技能の習熟に向けて、終末段階(まとめと適用)の確実な時間確保を行う。
 - 〔共通〕 学習の躰に関する共通実践事項を定め、基本的な学習態度の育成を図る。
- 特に、導入時において、知的好奇心を高める工夫を意識して行う。(内発的動機付けの重視)

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

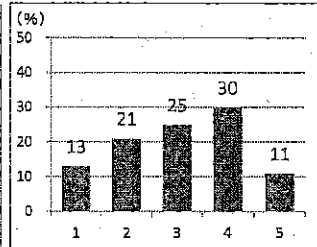
出水市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

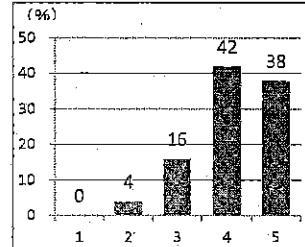


〈課題〉

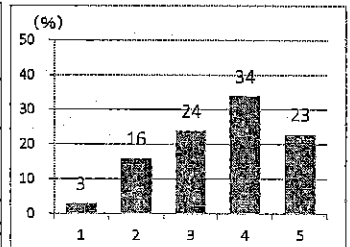
- ・5段階の分布状況について、A問題の4, 5段階は67%であるが、B問題では41%である。活用する力の定着が十分でない。
- ・ローマ字の表記について課題がある。
- ・目的や意図に応じてグラフを基に、条件に沿って自分の考えを書くことに課題がある。

【中学校】

〔国語A〕



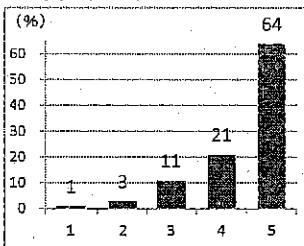
〔国語B〕



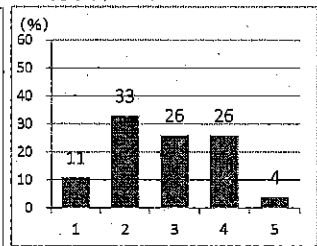
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題の4, 5段階は、80%となっているが、B問題は、57%である。B問題の上位層を伸ばしていく必要がある。
- ・自分で課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考え、それを記述することに課題がある。

〔算数A〕



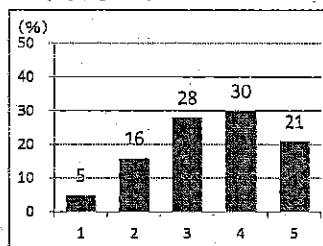
〔算数B〕



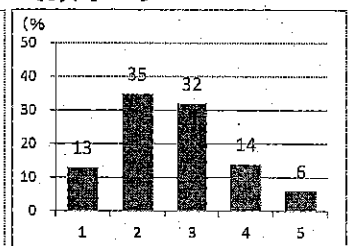
〈課題〉

- ・5段階の分布状況では、A問題では、5の段階が64%で、基礎・基本が身に付いていると考えられる。B問題については、5の段階が少なく、下位層が多い傾向がある。
- ・公約数の考え方を図形に適用できる理由を記述で答えることに課題がある。
- ・数量や図形についての技能に課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況から、B問題で、4, 5の段階が20%であることから、活用する力に課題があると考えられる。
- ・加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することに課題がある。
- ・筋道を立てて、証明するなど、説明する力に課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の重点として取り扱っていく。

- 全校において学力調査と学習状況調査の結果を細かく分析させ、自校の課題を明確にして具体的対応策を立てさせ共通実践に取り組ませる。
- 学力向上プロジェクト委員会を中心としながら、子供一人一人の思考力・判断力・表現力等を育成するために、主体的・対話的で深い学びをするためのモデル授業を実施して、その成果を各学校に還元し授業力の向上を図る。
- 自分の考えを表現する力を高めるために、「かごしま学力向上支援Webシステム」の記述問題を活用するように、各学校への指導を徹底する。
- 定着度の低い問題については、授業の振り返りで活用したり、補充指導で活用したりさせながら実施状況の見届けをさせ、具体策を研究・実践させる。

以下の点を、特に改善を要する内容とし、管理職研修会や学力向上プロジェクト委員会で指導し、取り組ませる。

〔小学校〕(国語科) ・自分の考えを、複数の条件に合わせてまとめて書く力や、ローマ字の読み、書き

(算数科) ・算数的な活動を十分取り入れながら、数学的な言葉で表現する力

〔中学校〕(国語科) ・資料から適切な情報を得て、自分の伝えたい事実や事柄を明確に伝えるように書く力

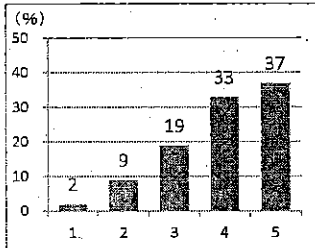
(数学科) ・図形の証明、グラフの読み取りなど、事象を数学的に説明する力

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

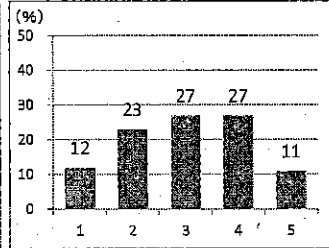
薩摩川内市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕

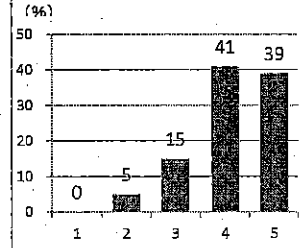


〔国語B〕

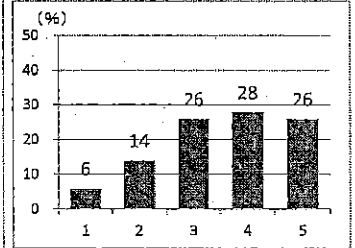


【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



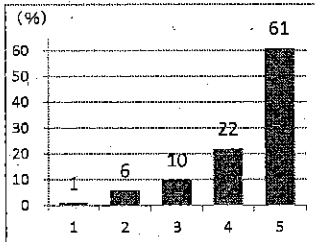
〈課題〉

・5段階の分布状況では、国語Aは、4・5の段階が70%であるが、国語Bでは38%であることから、活用する力は十分に付いていない。A・Bとも中間層の底上げを図っていく必要がある。
・漢字の習得に課題が見られる。
・目的や意図に応じて、読んだり、書いたりすることに課題がある。

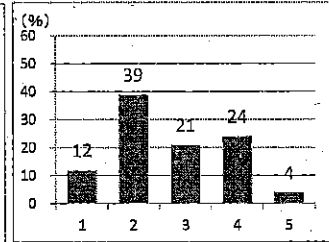
〈課題〉

・5段階の分布状況では、国語Aは、4・5の段階が80%であり、B問題では54%であることから、基礎・基本は、概ね身に付いている。今後は、A・Bとも下位層20%の底上げを図っていく必要がある。
・小学校同様、漢字の習得に課題が見られる。
・文章の構成を捉えたり、目的に応じて文章を要約したりすることに課題がある。

〔算数A〕



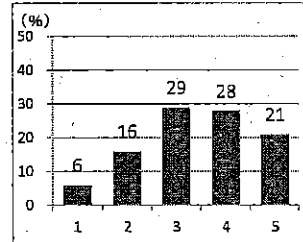
〔算数B〕



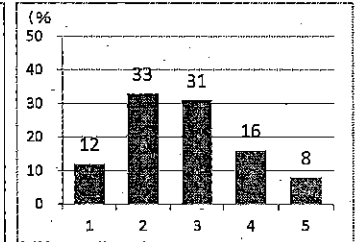
〈課題〉

・5段階の分布状況では、算数Aは、4・5の段階が83%であるが、B問題では28%であり、このことから、基礎・基本は、身に付いているので、それを活用する力を伸ばしていく必要がある。
・乗法や割合の意味の理解に課題がある。
・示された説明や式等を解釈して、別の場面に適応して説明することに課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況では、数学Aは、4・5の段階が49%であり、B問題では24%である。このことから、基礎・基本及び活用する力が十分に定着していない。
・文字式、一元一次方程式、一次関数等の理解など、基礎・基本の習得に課題がある。
・筋道を立てて説明したり、付加された条件の下で、新たな条件を見つけたりすることに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。

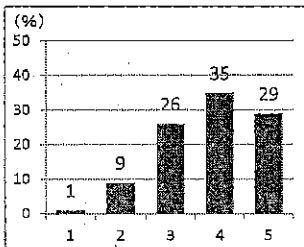
- 小中一貫教育を通して、各中学校区の分析や改善に向けた具体的な取組を小・中学校が共通実践していくように指導し、確認を行っていく。また、9年間の指導計画づくりにも活用していくよう指導する。
 - 本市の課題である活用する力を伸ばすために、「学んだこと、分かったこと」を生かす場面を充実させたり、その場面において授業と関連した「かごしま学力向上支援Webシステム」上の問題を活用させたりして、深い学びにつながるよう指導していく。
 - 各学校で「100点チャレンジ」を確実に実施し、児童生徒に多様な見方・考え方、達成感等を確実に身に付けさせるように各学校の取組状況を確認していく。また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。
- 〔小学校〕(国語科)・目的や意図に応じて読んだり、書いたりできるように、読みの視点や書く視点を明確にした授業に取り組ませる。
(算数科)・示された説明や式を解釈して、別の場面に適用して説明する活動を取り入れさせる。
- 〔中学校〕(国語科)・必要な情報を過不足なく要約して、決められた字数で書く活動を取り入れさせる。
(数学科)・言葉や数、式、表、グラフ等を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明する活動を取り入れさせる。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

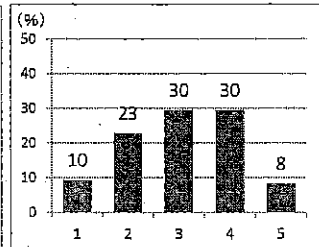
さつま町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

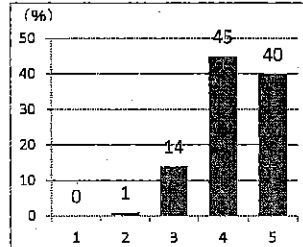


〈課題〉

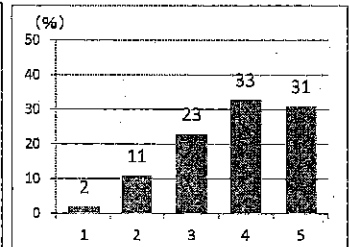
・5段階分布の状況について、A問題の4と5の段階は64%であるが、B問題は38%である。昨年度と比較しても、A問題で5%, B問題で28%減少している。このことから、基礎的・基本的な内容の定着、それを活用する力の向上の両方に大きな課題が見られる。
・平仮名で表記されたものをローマ字で書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読んだりすることに課題がある。また、グラフを基に分かったことを的確に書くことにも課題がある。
・資料等の凡例を基にして、内容を関係付けながら考察し、分かったことを適切な言葉で説明する等の場を授業で設定する必要がある。

【中学校】

〔国語A〕



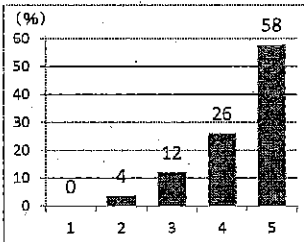
〔国語B〕



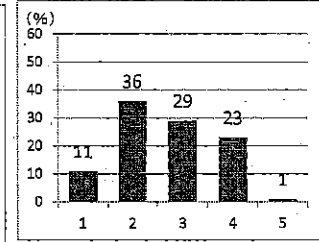
〈課題〉

・5段階分布の状況について、A問題の4と5の段階は85%であるが、B問題は64%である。昨年度と比較しても、A問題で6%, B問題で2%増加している。このことから、基礎的・基本的な内容の定着、それを活用する力は概ね身に付いていると分析できる。活用する力の更なる向上が求められる。
・文脈に即して漢字を正しく書くことや、文字の形や大きさ、配列に注意して書く等、基礎的・基本的な内容を確実に理解し使うことに課題がある。
・既習の漢字を積極的に使用するように指導するとともに、同音の漢字や形が似た漢字など、間違えやすい漢字に注意するように指導する必要がある。

〔算数A〕



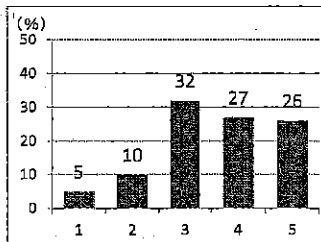
〔算数B〕



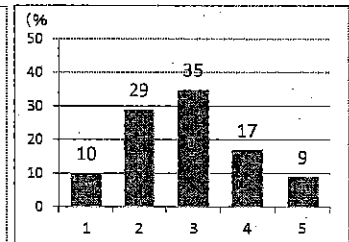
〈課題〉

・5段階分布の状況について、A問題の4と5の段階は84%であるが、B問題は、37%である。さらに、B問題の5段階は1%である。昨年度と比較すると、A問題は7%増加しているが、B問題は13%減少している。基礎的・基本的な内容の定着は図られているが、それを活用する力の向上に課題がある。
・図形を構成できた理由を角の大きさを基に論理的に考察し説明することに課題がある。
・問題解決のために、示された資料から必要な情報を判断することができる力を育成する必要がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階分布の状況についてA問題の4と5の段階は53%であり、B問題も、26%である。昨年度と比較しても、A問題は3%, B問題は6%減少している。基礎的・基本的な内容の定着、それを活用する力の両方に課題がある。
・数量の関係を文字式に表すことや、与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明すること、筋道を立てて考え、証明すること等に課題がある。
・日常の授業において、問題解決の過程を振り返って考える場を設定する必要がある。

【改善策】

今後、以下に示す内容について、本町の学力向上施策として取り扱っていく。

- 1 「授業サポートプロジェクト」に、他校の教諭も参加して研修を行ったり、町教育研究会の各部会で研究授業を通した研修を実施したりして中学生の学力の向上を図る。
- 2 小学校授業力向上事業を充実し、研究推進校に教諭を派遣し指導力の向上を図ったり、研究推進校の教諭を講師に招いて小学校教諭の授業力の向上を図ったりする。
- 3 町小中高連携研修会を充実し、町教委の施策の実施に向けた共通理解を図るとともに、進捗状況を確認する。
- 4 主体的な家庭学習を推進するために、学校でその日の学習内容を振り返り、家庭学習の計画を具体的に立てる「さつまタイム」を実施し、充実を図る。
- 5 「かごしま学力向上支援Webシステム」上の問題等を、問題集にして全児童生徒に配布し、個別指導に生かす。

また、以下の内容を管理職研修会や小中高連携研修会、各学校の校内研修等で指導する。

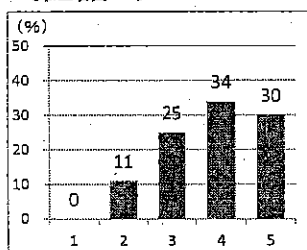
- 1 問題解決学習を確実にし、日々の授業で児童生徒が主体的に学習できるように具体的な指導を行う。
- 2 自分で考えて、その考えを発表し、他の児童生徒の考えを聞き自分の考えに取り入れる活動を展開する。
- 3 必要な文章から情報を読み取り、情報を関係付け、自分の考えに生かし表現する活動を展開する。
- 4 問題解決の方法を説明し、解決の過程を振り返って考える活動を展開する。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

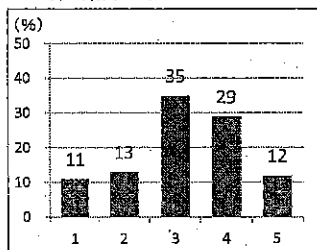
長島町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

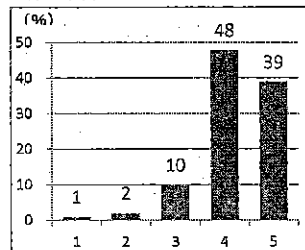


〈課題〉

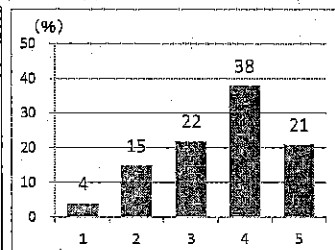
- 5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は74%であるが、B問題では42%であることから、基礎・基本は概ね定着しているが、それを活用する力は十分身に付いていない。
- 領域別に見ると、「書く」ことに課題が見られる。中でも目的や意図に応じて書く事柄を整理すること、グラフや資料から分かったことを的確に書くことに課題がある。

【中学校】

〔国語A〕



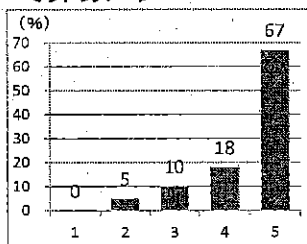
〔国語B〕



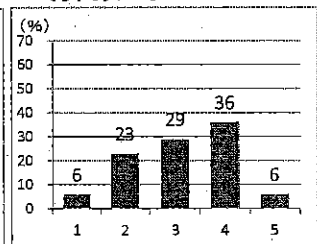
〈課題〉

- 5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は87%であるが、B問題では59%であり、中位層及び下位層の活用する力の底上げが必要である。
- 領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」にやや課題が見られる。中でも、文章の照応について理解することや、本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。

【算数A】



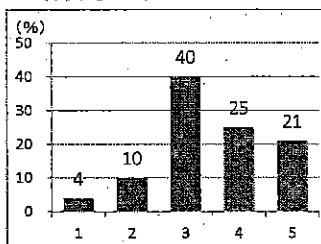
【算数B】



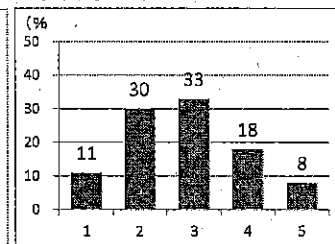
〈課題〉

- 5段階の分布状況では、A問題の5、4段階は85%で、基礎・基本は概ね定着しているが、B問題では42%であり、活用する力は十分身に付いていない。中位層及び下位層の活用する力の底上げが必要である。
- 示された式の中の数値を意味を解釈し、記述することに課題がある。

【数学A】



【数学B】



〈課題〉

- 5段階の分布状況では、A問題の4、5段階は46%であり、B問題では26%であることから、中位層及び下位層が多い傾向が見られる。中位層及び下位層の底上げとともに、上位層を更に伸ばす必要がある。
- 筋道を立てて証明すること、与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱うようにする。

- 本町で実施している各教科等部会や中学校区教育研究会を中心に、学力向上策を具体的に設定し、それに沿った授業改善を図るとともに、中学校においては、各教科担当教諭による町内共通の評価問題作成を通して、教材研究力及び指導力向上につなげるようにする。
- 中位層や下位層を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるために、「かごしま学力向上支援Webシステム」を活用したり、各学校での独自の取組を更に充実させたりすることで、学力向上を図るよう各学校への指導を行い、活用状況について見届ける。

また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任等研修会等で指導し、各学校で取り組むようにする。

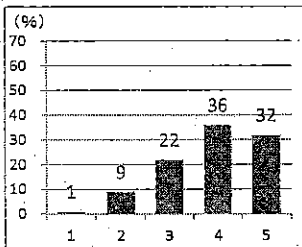
- 〔小学校〕(国語科) 自分の考えや意見をもたせ、他者と交流する学習を通して、自分の考えをまとめ、書く活動を充実するようにする。
(算数科) 資料や図から得た情報を整理し、根拠を示しながら説明する力の育成を図る授業を充実するようにする。
- 〔中学校〕(国語科) 文章や資料等から得られた情報について、整理したり情報交換したりしながら、自分の考えをまとめる活動を充実するようにする。
(数学科) 問題の意味を正しく理解し、数学的表現を用いながら筋道を立てて考え、まとめたり考察したりする活動を充実するようにする。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

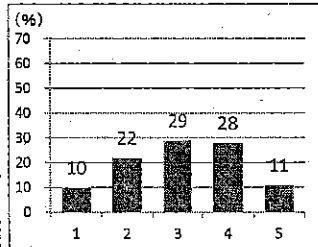
霧島市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

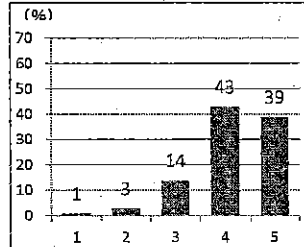


〈課題〉

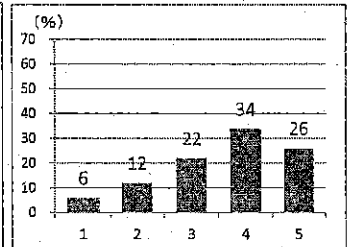
- ・ 5段階の分布状況において、A問題でも低位層が1割程度あり、対策が必要。B問題については、低位層が3割を超え、上位層が少なくなっている。
- ・ 目的に応じた意図的な情報収集や効果的に表現するための選材など、目的に合わせた情報の活用に関する問題の正答率が特に低かった。

【中学校】

〔国語A〕



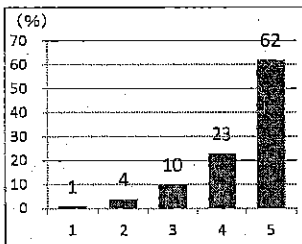
〔国語B〕



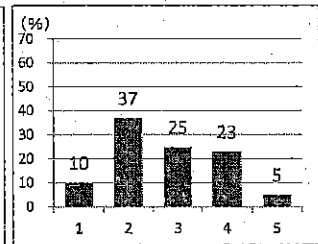
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況において、A問題は4・5段階が8割を超えるとともに低位層が少なく、全体的な底上げがなされている。B問題については低位層が多く、無答率も高い。
- ・ 基本的な言語事項については比較的正答率がよいが、言語情報を客観的に評価・分析することに課題がある。

〔算数A〕



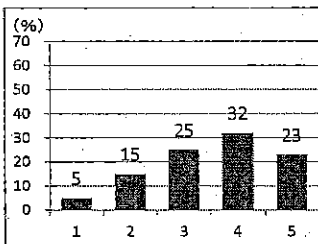
〔算数B〕



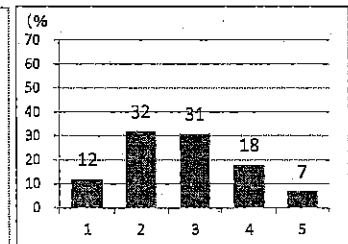
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況では、A問題においては上位層、B問題においては下位層が多い傾向が見られる。
- ・ 定着している知識・技能を他事象に活用し、論理的に考え、説明することに課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況では、数学A・B問題ともに中位層が多い傾向があり、ほぼ正規分布になっている。
- ・ 事象について考察したことを、アプローチの方法や手順、理由を含めて論理的に説明することに課題がある。

【改善策】

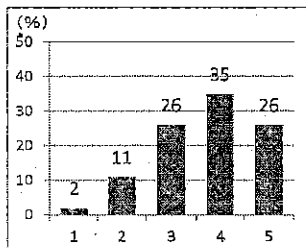
- 児童・生徒の活用力に関する課題の把握(「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用を通して)
 - ・ 全国学力・学習状況調査の各校における結果分析を基に、課題として挙げられた問題と類似した問題に取り組ませる中で、身に付けた知識・技能を生かして課題解決を図る経験を積ませる。
 - ・ 校内で把握した傾向を基に、学級担任・教科担任それぞれが担当する児童・生徒の実態に合わせて取り組ませる問題を選択し、県全体の結果と比較しながら分析作業を行う中で、活用力に関する児童・生徒それぞれの課題を客観的に把握させ、より細やかで充実した個別指導が行われるようにする。
- 活用力を高める授業を構築するために
 - ・ 指導主事による校内研修指導等を通して、全教職員でアクティブ・ラーニングの考え方を生かした授業について学ぶ場、授業改善について話し合う場等を設定し、教職員が互いに指導力を高め合うことができるようにする。
 - ・ 小中連携に関する合同研修会等を充実させ、9年間を通した学びの中で、「知識・技能の活用に重点を置いた指導の在り方」について教職員が理解を深められるようにする。
- 管理職や学校職員への働きかけ
 - ・ 平成29年度の指導計画作成の際に、知識・技能の活用に重点を置いた計画が作成できるよう、管理職研修会等でその意義について確認する。
 - ・ 管理職研修会等で、活用力を高めるための方策についての研究協議の場を設定する。
 - ・ 校内研修や研究授業指導等を通して、各校に活用力を高めるために効果のあった実践例を紹介し、教職員が具体的な授業のイメージをもてるようにする。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

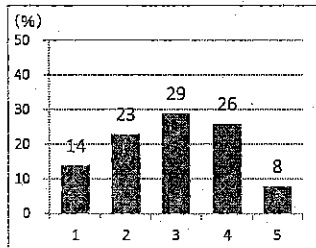
伊佐市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



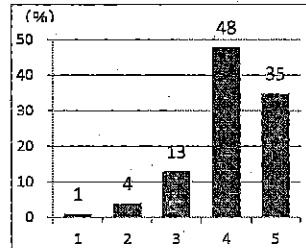
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4・5段階は61%であるが、B問題では、34%であることから、基礎・基本は概ね身に付いているが、それを活用する力は十分ではない。

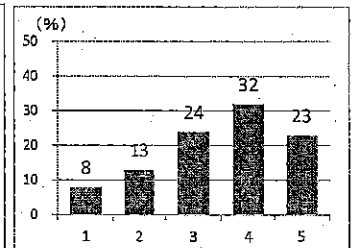
・資料や表を読み、適切な情報を取り出し、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように、説明することに課題がある。

【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

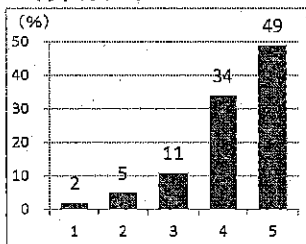


〈課題〉

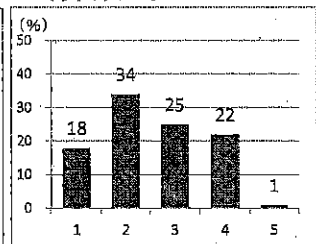
・5段階の分布状況について、A問題は、4・5段階が83%であり、概ね基礎・基本の定着が図られていると言える。B問題は55%であり、中・下位層をどのように伸ばしていくかが課題である。

・資料を読み、適切な情報を取り出し、根拠を明確にして、考えをまとめることに課題がある。無答率が高いので、生徒の実態に応じた指導が必要である。

〔算数A〕



〔算数B〕

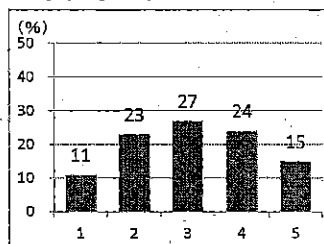


〈課題〉

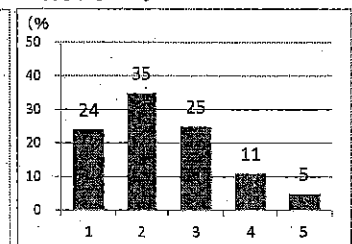
・5段階の分布状況について、A問題の4・5段階は83%、1・2の段階は7%であり、改善が図られている。しかしB問題において、1・2段階は、52%であり、基礎・基本を活用する力に課題がある。

・資料やグラフに示された数量の関係を読み取り、示された情報を整理し、判断した理由を言葉や数を使って説明することに課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況から、A問題は、2～4段階の割合に差がないこと、B問題は、1・2の段階が6割に近いことから、基礎・基本及び活用する力ともに十分定着していない。

・事象を式の意味に即して解釈し、その結果について、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

・数や図形の性質について、筋道を立てて説明したり、発展的に考えたりすることに課題がある。無答率も高い。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上に向けた重点施策として取り組んでいく。

- 拠点校や推進校における「授業サポート」に、本市の指導主事も参加して継続的な学校訪問を通じた授業づくりの支援や指導・助言を行う。
- 中位層や上位層を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるために、「かごしま学力向上支援Webシステム」を活用するように、各学校への指導を徹底する。
- 管理職研修会等を利用し、各学校でPDCAサイクルに基づき、調査結果の分析・今後の取組について協議する時間を設ける。また、定着が不十分であった問題については、補充指導を徹底させるなど、見届けまで確実に行う。

また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任等研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。

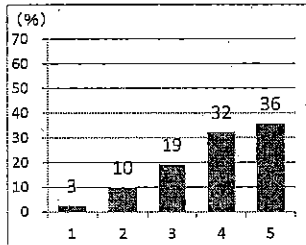
- 〔小学校〕（国語科） 自分の考えを理由や根拠を明確にして表現させる指導を行う。
- （算数科） 資料や図・表から読み取った情報を整理し、筋道を立て根拠を明確にし解決に導く指導を行う。
- 〔中学校〕（国語科） 読み取った情報を整理する中で、根拠を明確にして、自分の考えを書く指導を行う。
- （数学科） 問題解決に必要な情報を収集し、論理的に説明することができるような指導を行う。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

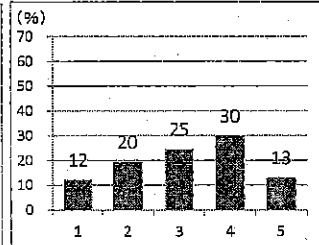
始良市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

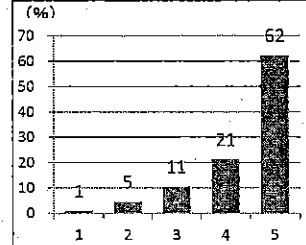


〈課題〉

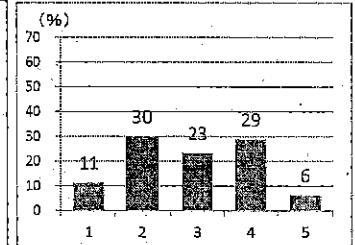
・5段階の分布状況については、A問題の4、5段階は、68%、B問題の4、5段階は、43%と、基礎・基本は定着傾向だが、活用や上位層の伸びに課題がある。
・漢字やローマ字等の指導事項を定着させることや、目的や意図に応じて聞き方を工夫したり、自分の考えを条件に合わせて書いたりする指導の工夫が必要である。

【中学校】

〔国語A〕



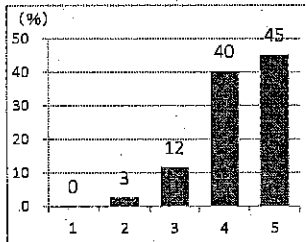
〔国語B〕



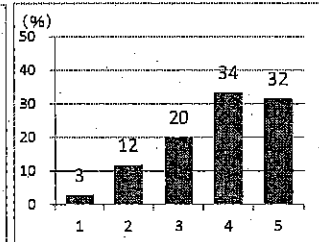
〈課題〉

・5段階の分布状況については、A問題は、5段階が62%であるが、B問題は、2極化の傾向にあり、知識・技能の活用やB問題の上位層の伸びに課題がある。
・書かれている情報の目的や意図を把握して、文章の要旨を捉えさせたり、文や文章の中で、文脈に即して漢字を書かせたりする指導の工夫が必要である。

〔算数A〕



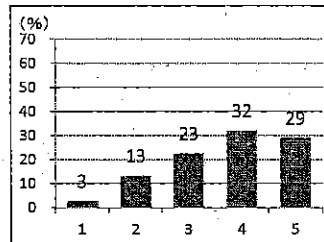
〔算数B〕



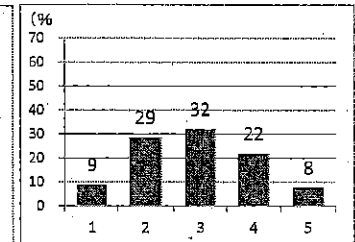
〈課題〉

・5段階の分布状況については、A問題の4、5段階は、86%であるが、B問題の4、5段階は、65%と、基礎・基本は定着傾向だが、活用に課題がある。
・示された説明を解釈する問題や、基準量や比較量の関係に関する問題に課題があり、問題を解く過程を筋道立てて説明できるようにする指導の工夫が必要である。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況については、A問題の4、5段階は、61%であるが、B問題の4、5段階は、30%と、基礎・基本は定着傾向だが、活用に課題がある。
・筋道立てて証明する問題や、表・式・グラフなどの用い方を考える問題に課題があり、問題を解く過程を説明することや、仮定と結論を区別して証明できるようにするなどの指導の工夫が必要である。

【改善策】

今後、以下示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点と取り扱っていく。

- 「始良市学力向上アクションプラン推進事業」において、「学習意欲の向上」「教員の指導力向上」「学習量の増大」の視点から、小中連携の共通実践事項の取組を推進し、落ち着いた「学ぶ学校・学ぶ教室」を充実させる。
- 授業において「書くこと」「反復すること」「中心となる学習活動及び発問の設定」「根拠(理由)を明確にした発表」「よりよく問題を解決する定着の場」「学習の構え」「音読」の七つの徹底事項に取り組むよう、学校訪問、研究授業等で理解を深める。
- 自己採点速報版の分析・補充指導の実施、確定版の分析・授業における指導方法改善、指導計画、教育課程の見直しと、各種学力調査等を有効に活用し、カリキュラムマネジメントの意識を高めていく。

また、以下の教科に関する事項を、各種研修会や校内研修で指導し、各学校の授業で徹底できるように取り組む。

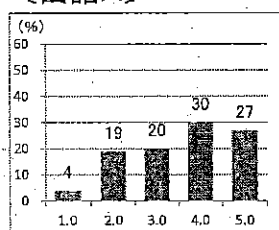
(国語科) ・ 文章を書く目的や読む目的、話合いの目的等、児童生徒自身に目的を意識させて、取り組ませる。
・ 言語事項の定着に向けて、「ポイントの指導、見届け、定着」の意図的・計画的な指導を行う。

(算数・数学科) ・ 問題の状況を絵に表して立式する、解決の考え方を説明する等の、考え方を身に付けさせる指導を行う。
・ つまずきの把握、スモールステップによる克服、つまずきに学び合う等の指導の工夫を行う。

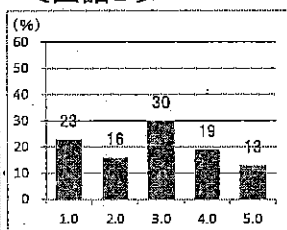
平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ、課題、改善策)

湧水町教育委員会

【小学校】 〔国語A〕



〔国語B〕

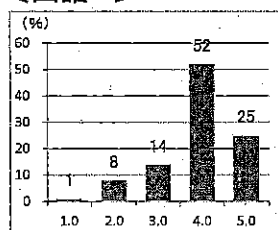


〈課題〉

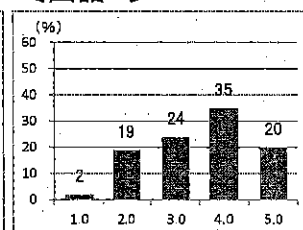
・5段階の分布状況について、A問題は、県や全国と同様の分布状況であるが、5の段階が薄く、3の段階が厚い。B問題についても同様の状況が見られ、特に1の段階の底上げが課題である。

・漢字やローマ字の読み書きについては、昨年に続いて正答率が低く課題の解決が進んでいない。B問題においては図表やグラフなどから必要な情報を取り出し、比較したり関係づけたりする学習経験の積み重ねが求められる。

【中学校】 〔国語A〕



〔国語B〕



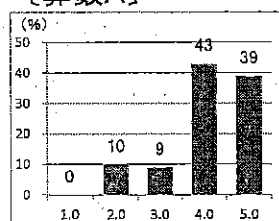
〈課題〉

・5段階の分布状況について、5の段階の割合が低い。とりわけ、B問題において顕著に表れている。しかし、昨年度と比較すると4、5の段階の生徒の割合が高くなっている。

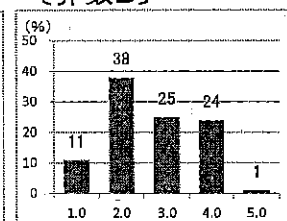
・書くことの領域に課題が見られるので、書く活動を取り入れた指導の充実が求められる。

・語句の意味を理解して文脈の中で適切に使うことや辞書の活用、文章の要旨を捉える等の設問の正答率が低いので一人一人に応じた指導の充実が求められる。

〔算数A〕



〔算数B〕

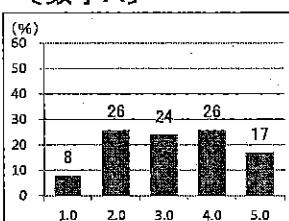


〈課題〉

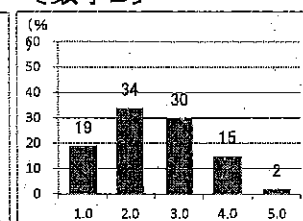
・5段階の分布状況については、B問題で5の段階の割合が低く、2の段階の割合が高い。

・量と測定、数量関係の領域に課題が見られるので下学年から共通の課題意識のもと、連続した指導の充実が求められる。また、記述問題に苦戦している状況があることから書く学習活動の充実が課題である。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況については、A・B問題で4、5の段階の割合が低く、B問題においては、1、2の段階の割合が高い。

・A問題の自然数や不等式の意味を問う設問の正答率が低い。平素の授業の中で意味を問う発問の工夫が求められる。B問題では、事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明する等の学習活動を取り入れることが求められる。

【改善策】

○ 今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱うようにしていく。

〔小学校〕(国語科) ・目的や意図を捉えながら聞き、聞き取った内容について、自分の考えとの共通点や相違点についてまとめる活動の重視

・文章と図やグラフなどを関連付けて自分の考えを書く指導の充実

(算数科) ・算数的活動をとおして、図、式、表、グラフとの関連付けを図ったり、考えを書いたりする活動の充実

・友達と考えを伝え合い、練り合う時間を確保し、課題に対する解を自分の言葉で表現する活動の重視

〔中学校〕(国語科) ・伝えたい事柄が明確になるように文章の構成をしたり、相手に効果的に伝わるように書いたりする活動の重視

・文章の中心部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりする活動の重視

(数学科) ・数学的な解釈に基づいて、事柄が成立する理由を説明する活動の重視

・与えられた表や式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明する指導の充実

〔全 体〕

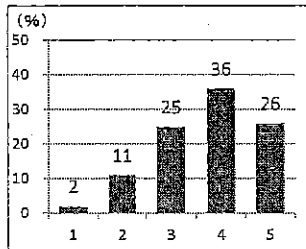
・問題解決的なめあての設定とそれに照応した協動的な活動や振り返りの活動の充実を小中連携の軸として取り組む。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

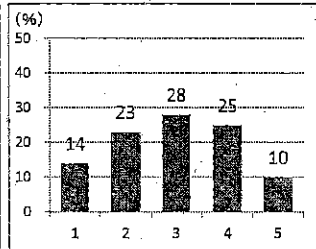
鹿屋市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

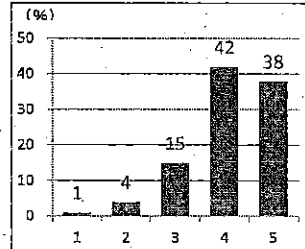


〈課題〉

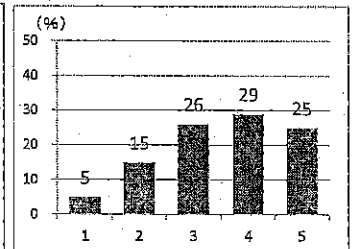
- ・5段階の分布状況では、A問題で4・5段階の児童が62%であり、大きく落ち込んでいる。またB問題も、全国より大きく下回っており、基礎的・基本的内容の定着にも思考力・判断力・表現力の育成にも、大きな課題がある。
- ・漢字・ローマ字等の基本的な内容の定着が低い。
- ・言語活動を生かした思考ができていない。

【中学校】

〔国語A〕



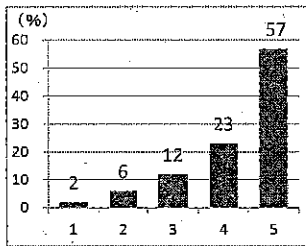
〔国語B〕



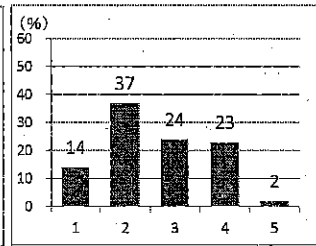
〈課題〉

- ・5段階の分布状況では、A問題で4・5段階の生徒が80%であり、全国を下回っているものの伸びが見られる。またB問題は、5段階及び1・2段階が増えており、個人差が大きく、思考力・判断力・表現力育成の充実が課題である。
- ・話す・聞く内容の理解が低い。
- ・内容を正確に理解し、要旨をまとめられないことに課題がある。

〔算数A〕



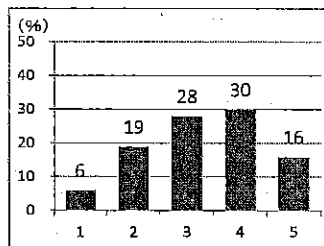
〔算数B〕



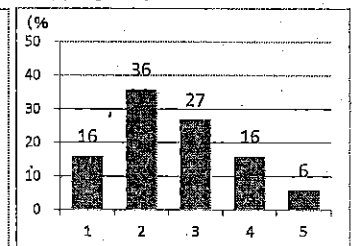
〈課題〉

- ・5段階の分布状況では、A問題は4・5段階の児童が80%であり、特に5段階で大きな伸びが見られる。一方、B問題は、昨年度より伸びているものの、全国より大きく下回っている状況であり、思考力・判断力・表現力の育成に課題がある。
- ・式やグラフ、図形等の意味を、筋道立てて書くことに課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況では、A問題で1～3段階の生徒が多く、基礎的・基本的な内容の定着に問題がある。またB問題は、全国より大きく下回っている状況であり、思考力・判断力・表現力の育成にも大きな課題がある。
- ・一元一次方程式・一次関数等の基本的な内容が定着していない。
- ・筋道を立てて説明することに課題がある。

【改善策】

- 本年度は、各学校において学校教育目標を達成するための共通実践事項を定め、全教職員で共通理解し、実践を進めている。そのPDCAサイクルに学校担当指導主事がより積極的に関わり、学校の努力を支えていく。
- 児童生徒質問紙や学校質問紙の結果から、本市では、授業での話し合い活動そのものは増えつつあるが、児童生徒が学び合うまでの話し合いになっていないことが分かる。今後、授業の中に児童生徒が対話や協働する活動を充実させ、質の高い学び合いを基本とした授業づくりを進める。
- 授業の基盤は学級にある。よい学びができる学級集団づくりに各学校で取り組ませる。
- 「今週の1問」や県学力向上Webシステムの評価問題を授業等で効果的に活用するように具体的な指導を続ける。
- 各中学校区において、小中連携の研修を活性化させ、9年間を見通した教育活動を推進する。

基礎的・基本的な内容の確実な定着を進めると同時に、下記の項目を授業改善の重点として取り扱うこととする。

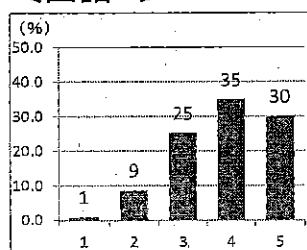
- 〔小学校〕(国語科) 学習した内容を、実際に活用しながら考えさせる活動の充実
- (算数科) 示された式やグラフ、数字・図の意味を筋道を立てて説明する活動の充実
- 〔中学校〕(国語科) カリキュラムを工夫し、話す聞く、まとめるといった学び合い活動の充実
- (数学科) 各内容について、学んだことをもとに筋道を立てて説明する活動の充実

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

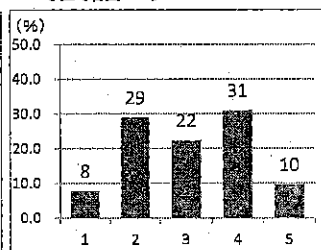
垂水市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕

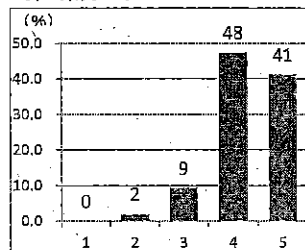


〔国語B〕

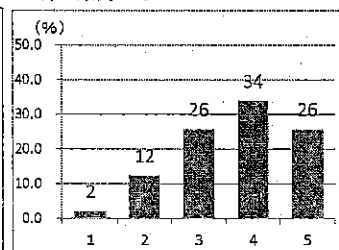


【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



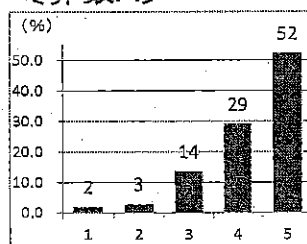
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は65%であるが、B問題では41%であることから、基礎・基本の力を活用していく力に課題が見られる。
・物語文において複数の叙述を基に人物像を考えたり、目的や意図に応じて収集した情報を関連づけながら話し合ったりすることに課題がある。

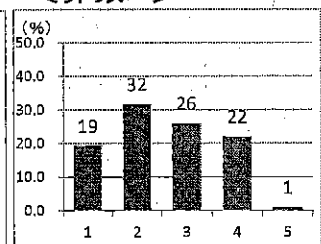
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は89%であるが、B問題では60%であることから、基礎・基本の力を活用していく力に課題が見られる。
・文章の中心的部分と付加的部分を読み分け要旨を捉えたり、根拠を明確にししながら自分の考えを具体的に書くことに課題がある。

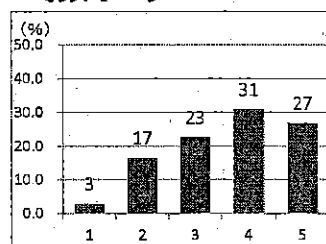
〔算数A〕



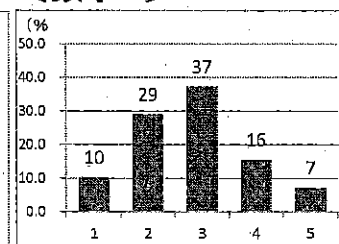
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は81%であるが、B問題では23%であることから、基礎・基本の力を活用していく力に課題が見られる。
・筋道を立てて考え判断の根拠を説明したり、説明を振り返り結論につながる説明を加えたりすることに課題がある。

〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は58%であるが、B問題では23%であることから、基礎・基本の力を活用していく力に課題が見られる。
・数量の関係を文字式に表したり、付加された条件に基づき、新たな事柄を見出した上で説明したりすることに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策実施の重点として取り扱っていく。

- 児童生徒一人一人に確かな学力を付けるために、学力向上モデルに基づいた授業を実施させる。
- 校内研修や年次別研修などに指導主事が継続的に訪問することで授業改善を推進する。
- 個に応じた指導を充実させるために、「かごしま学力向上支援WEBシステム」や「eライブラリ」を活用するように各学校への指導を徹底する。
- 「分かる授業」を実現するために、ICT機器(タブレット等)を積極的に活用させる。

また、以下の事項を管理職等研修会や教務主任等研修会、教科担当者会で指導し、各学校で取り組ませる。

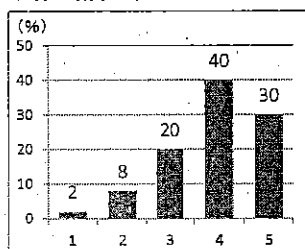
- 〔小学校〕(国語科) 叙述に基づいた複数の情報を関連づけるような言語活動を展開するよう指導を行う。
- (算数科) 筋道を立てて考えた過程を練り上げていくような相互解決の活動を展開するよう指導を行う。
- 〔中学校〕(国語科) 根拠を明確にししながら自分の考えを表現できるような言語活動を展開するよう指導を行う。
- (数学科) 言葉や数、式、表、グラフなどの関連を考えさせ、表現できるような活動を展開するよう指導を行う。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

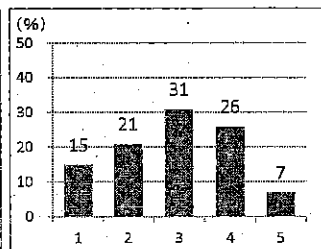
曾於市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



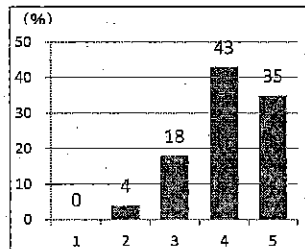
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は70%であるが、B問題は、33%である。特に、B問題においては、下位層が多く、活用する力が十分に定着していない。

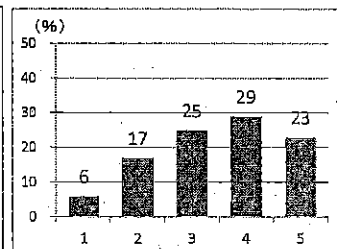
・話し手の意図を捉えながら聞いたり、話の展開に沿って質問する内容を書いたりすることや、目的に応じて、質問したいことを整理することに課題がある。

【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

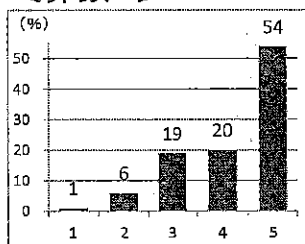


〈課題〉

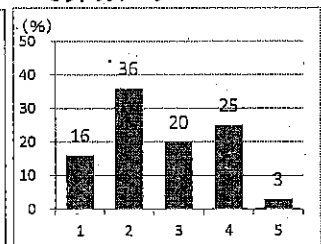
・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は78%であるが、B問題は、上位層が少なく、中位層、下位層が多いことから、知識・技能は概ね定着しているが、それらを活用する力が十分に定着していない。

・文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことや、目的に応じて必要な情報を読み取ることに課題がある。

〔算数A〕



〔算数B〕

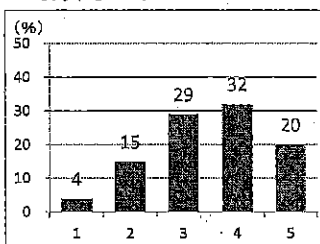


〈課題〉

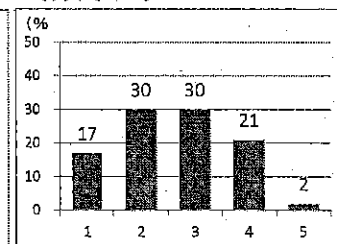
・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は74%であるが、B問題は、5段階が極端に少なく、1、2段階が多いことから、活用する力が十分に定着していない。

・示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、説明を記述することや、単位量当たりの大きさを求めるために、ほかの必要な情報を判断し、特定することに課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題は、3、4段階が多いが、B問題は、下位層の割合が多いことから、活用する力が十分に定着していない。

・事象を数学的に解釈したり、与えられた式を用いたりして、問題解決の方法を数学的に説明することや、計算の過程を振り返って考え、新しい手順を完成することに課題がある。

【改善策】

今後、本市では「すべての子どもたちに確かな学力を～授業改善を学力向上へ～」をキャッチフレーズに、学校訪問や授業参観等を通して、特に以下に示す事項について、指導の更なる充実を図る。

- 学習規律(学業指導)の徹底、コミュニケーション能力の基盤としての「聴く力」の育成等、「学びの基礎力」の定着の徹底を図るとともに、つまずきの早期発見や補充指導等、「知識・技能」の確実な定着に向けた指導を徹底する。
- 「めあて」から「まとめ」まで完結する授業を徹底する。特に、「思考・判断・表現する場」においては、自分の考えを書いたり相手に分かりやすく伝えたりする場や、学び合いを通じた共に伸びる喜びを味わう場の設定について指導を徹底する。
- 「今週の1問」や「過去問」を授業や個別指導において、計画的・効果的に活用し、定着が不十分な領域の定着を図るための指導を徹底する。

以下の事項について、管理職研修会や校内研究授業等で指導を徹底し、授業改善を図る。

〔小学校〕(国語科) 相手や目的を明確にし、文章全体の内容や構成を工夫して書く学習を充実させる。

(算数科) 基礎・基本の徹底とともに、日常生活の事象を数理的に捉え、問題を解決する学習を充実させる。

〔中学校〕(国語科) 構成や展開、表現の仕方等に着目させ、目的や意図を考えながら情報を読み取ったり、根拠を明確にして自分の考えを書いたりする学習を充実する。

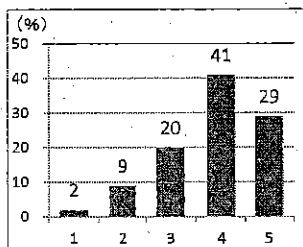
(数学科) 実生活の場面で問題を解決したり、問題解決のためにグラフや表を用いて捉え直したりする学習を充実する。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ、課題、改善策)

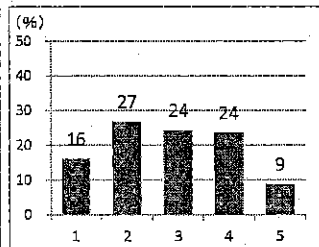
志布志市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕

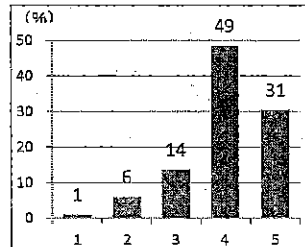


〔国語B〕

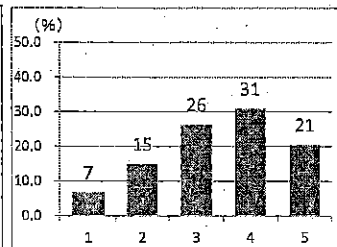


【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



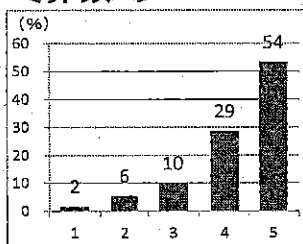
〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題の4・5段階の割合が7割であり知識理解は身に付いているが、B問題では上位の割合が少ないので活用する力を身に付ける必要がある。
・グラフや表をもとに考察し、考えたことを書いたり、意見を交流したりする活動を全教科で行う必要がある。

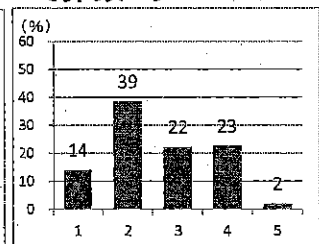
〈課題〉

・5段階の分布状況では、4・5段階の生徒がA問題で8割、B問題で5割を占めている。今後、3・4段階の生徒を更に伸ばしていく必要がある。
・ちらしや雑誌など多様な資料から情報を読み取り、自分の考えを書いたり、互いに考えを交流したりする活動を取り入れる必要がある。

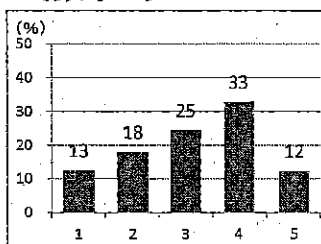
〔算数A〕



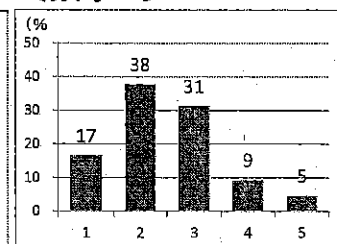
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題の4・5段階の割合が8割以上であるが、B問題となると下位の割合が多くなっているため身に付けた知識を活用する力を身に付ける必要がある。
・B問題において、自分の考えを説明したり、理由を書いたりする記述式に課題がある。

〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題で分布の広がりが大きい。また、B問題で4・5段階の割合が1割程度に留まっている。少人数指導、習熟度別指導等、個に応じた指導ができる体制を整える必要がある。
・論理的に考察して表現したり、根拠を述べながら説明したりする問題で無答率が高い。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り組んでいく。

- 全職員により本調査を正答数、問題形式、無答率、誤答傾向等、多面的に分析・改善策を検討し、全ての学級において確実な実践を行う。
- 授業において電子黒板、タブレット、書画カメラを効果的に活用し授業改善を図る。
- 志布志市授業モデルに基づき、授業改善を図る。
(学業指導「学びの5か条」、児童生徒の思考の深まる学習過程と教師の発問)
- 保護者向け「志アップ子育て手帳」の更なる活用を図り、家庭学習を充実させる。
- 志学教室(土曜学習教室)、生涯学習課の体験活動等、学校外での学習の機会を工夫し参加者を増やす。

また、以下の事項を管理職研修会や各校の授業研究等で指導し、各学校で取り組ませる。

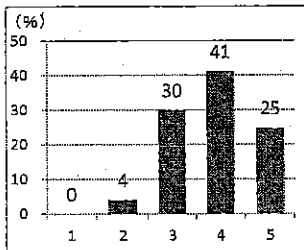
- 〔小学校〕(国語科)表やグラフ、図から考えたことを記述し、話し合う活動を社会・数学・理科等の教科でも充実させる。
(算数科)教師の発問により論理的な説明・根拠を練り上げる活動、考えを記述する活動を充実させる。
- 〔中学校〕(国語科)ちらし、雑誌、新聞等、多様な文章に触れ、それぞれに応じた読みを深め、記述する指導を行う。
(数学科)振り返りの時間とノートに書く時間を確実に確保することで習熟を図り、無答を減らす。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

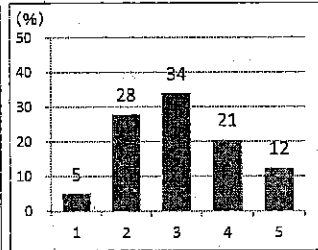
大崎町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

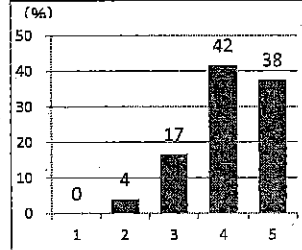


〈課題〉

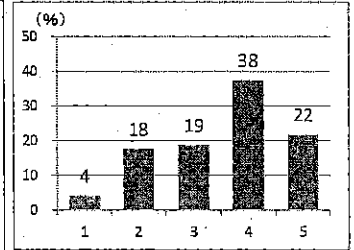
・5段階の分布状況について、A問題の4・5段階は66%であるが、B問題では33%であることから、基礎・基本はある程度身に付いているが、それを活用する力が十分身に付いていない。
・漢字の書き取りやローマ字表記など、基本的な言語事項に課題が見られる。
・物語文など文学的文章教材における登場人物の気持ちや叙述に即した読み取りに課題がある。

【中学校】

〔国語A〕



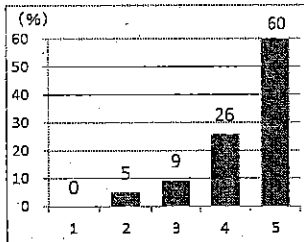
〔国語B〕



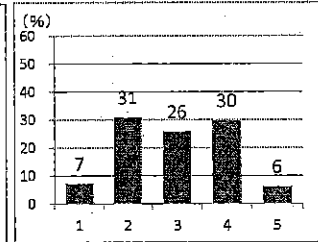
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4・5段階は80%であるが、B問題では60%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力が十分ではない。
・漢字の書き取りなど基本的な言語事項に課題が見られる。
・文章問題において、目的に応じて要約したり、必要な部分を読み取ったりすることに課題が見られる。

〔算数A〕



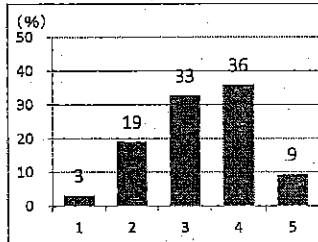
〔算数B〕



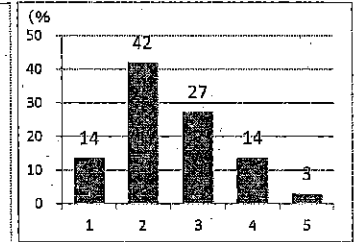
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4・5段階は86%であるが、B問題では36%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力が十分身に付いていない。
・単位量当たりの大きさを求めたり、全体に対する部分の割合を求めたりする量と測定に関する内容に課題が見られる。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4・5段階は45%で、B問題では17%であることから、基礎・基本及び活用する力等数学の力が十分身に付いていない。
・全体的に課題が見られるが、特に関数や資料の読み取りに係る問題に対し課題が多い。
・図形の構成要素の理解について課題が見られる。
・比例や反比例、一次関数のグラフの特徴や変域など、関数に係る問題に対し課題が見られる。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の重点として充実を図っていく。

- 町小中連携研究会を中心に、小中連携した学習の態の徹底と学力向上に向けた授業改善、指導力の向上に取り組む。
- 拠点校における「授業サポートプロジェクト」へ小学校教員も積極的な参加を勧め、学校への還元を図るとともに、指導主事による継続的な学校訪問を行い、授業づくりや効果的な指導法のあり方について指導・助言を行っていく。
- 定着が不十分であった問題等については、補充指導を徹底させるなど、各学校でPDCAサイクルの充実が図られているか、見届けを確実にを行う。

また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任研修会、小中連携推進委員会等で指導し、各学校で取り組ませる。

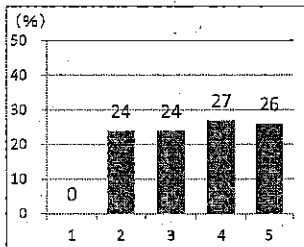
- 【小・中学校共通】 大隅終末ベーシック・大崎ティーチングポイントを意識した授業の確実な実践
- 【小学校】(国語科) 一人学びや話し合い活動を工夫し、場面の様子や登場人物の心情について読み取りを深める効果的な指導を行う。
(算数科) 見通しを立てて考えたり活動したりすることで、積極的に課題解決に取り組めるよう、指導を徹底する。
- 【中学校】(国語科) 一人学びや学び合い、全体での練り上げを通して、読み取る力を高められるよう指導を徹底する。
(数学科) 基本的な内容を確実に理解させ、スモールステップで計算処理等が確実に定着するよう指導を徹底する。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

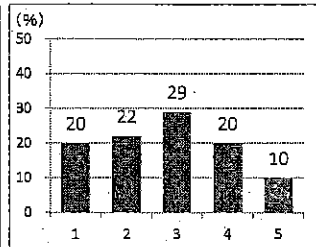
東串良町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

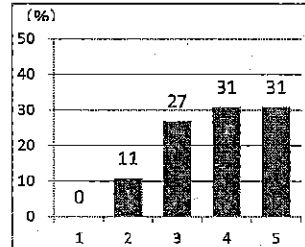


〈課題〉

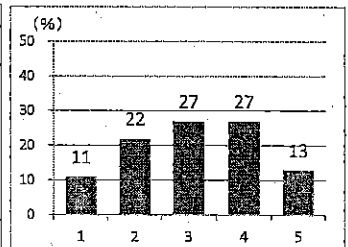
- ・5段階の分布状況から、A問題は2～5段階の割合に差がないこと、B問題は5段階が少なく、1・2段階の割合が多いことから基礎・基本及び活用する力ともに十分定着していない。
- ・平仮名で表記されたものをローマ字で書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読んだりすることに課題がある。
- ・文章から筆者の意図を見出したり、資料を基に自分なりの考えを書いたりすることに課題がある。

【中学校】

〔国語A〕



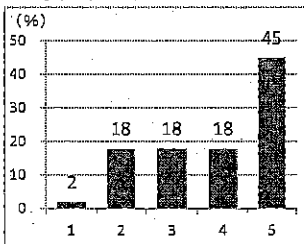
〔国語B〕



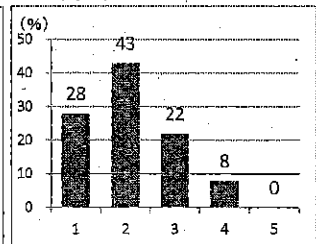
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題の4・5段階は62%であるが、B問題では40%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力が十分ではない。
- ・文章の構成を捉えたり、文章の展開に即して内容を理解したりすることに課題がある。
- ・本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。

〔算数A〕



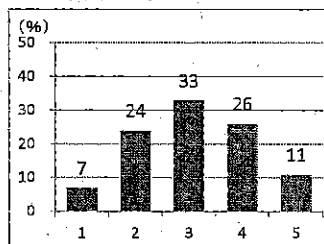
〔算数B〕



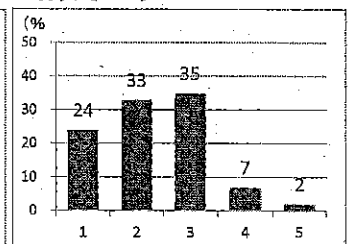
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題の4・5段階は63%であるが、B問題は4・5段階が8%、1・2段階が71%であることから活用する力の定着が喫緊の課題である。
- ・問題場面と照らし合わせながら、提示された乗法や除法の式の意味を解釈することに課題がある。
- ・問題の文章等から、問題解決に必要な条件を見出し、式や図に表現することに課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・分布状況では、数学A、Bともに5段階の生徒が少なく、A問題では中位層、B問題では下位層が多い傾向が見られる。
- ・正負の数や分数・小数の混ざった計算など、基礎的な知識や技能の定着に課題がある。
- ・与えられた情報から必要な情報を選択し、数量の関係などを数学的に表現することに課題がある。

【改善策】

今後、以下示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り組んでいく。

- 推進校における「授業サポートプロジェクト(授業)」や町内各校の研究授業時に、本町の指導主事や(校種を超えた)各校の主任教諭等も一緒に参加するようにし、小中9年間の系統や校種間連携を重視した授業づくりの支援や指導・助言を行う。
- 個に応じた学習活動を充実させるために、「かごしま学力向上支援Webシステム」や「町算数・数学共通テスト」等を活用するよう、各学校への指導を徹底する。
- 定着が不十分であった問題については、分析結果に基づく補充指導を徹底させるなど、各学校でPDCAサイクルの充実が図られているか、見届けまで確実に実行する。

また、以下の事項を、管理職研修会や小中一貫教育推進会議等で指導し、各学校で取り組ませる。

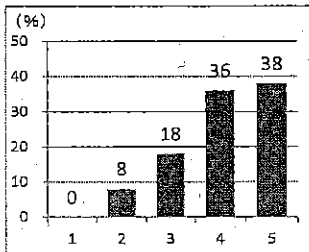
- 〔小学校〕(国語科)筆者の考えを解釈したり整理したりしながら、自分なりの考えを書く活動(機会)を充実させる。
(算数科)既習場面と照合しながら問題把握を行ったり、個々の考えを比較・関係付け・吟味したりする活動を重視させる。
- 〔中学校〕(国語科)目的に応じて必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く活動(機会)を充実させる。
(数学科)既習場面と照合しながら問題を解釈したり、個々の考えを比較・関係付け・吟味したりする活動を重視させる。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

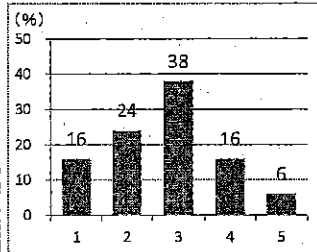
錦江町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

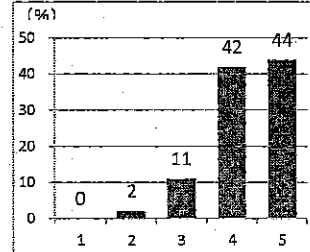


〈課題〉

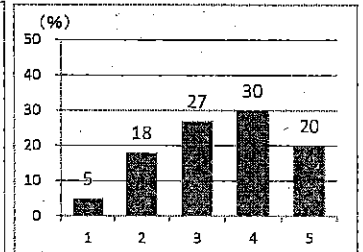
・5段階の分布状況について、A問題は4, 5段階が74%であるが、B問題では22%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力に課題がある。
・目的や意図を明確にして、表現の工夫を行いながら正しく伝え合う活動の充実が課題である。

【中学校】

〔国語A〕



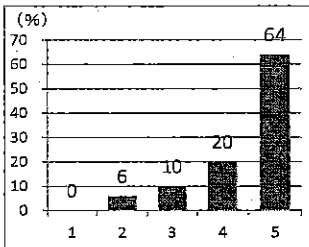
〔国語B〕



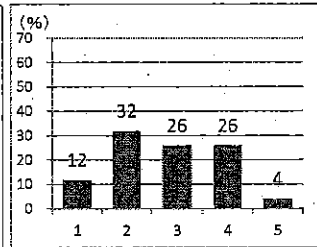
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題は4, 5段階が86%であるが、B問題は2～5段階の割合に大きな差がない。身に付けた基礎・基本を活用に繋げるため、各段階における個別的な課題を捉え、向上を図る必要がある。
・国語Bでの個人差が大きく、個々の実態に応じた指導・支援が必要である。

〔算数A〕



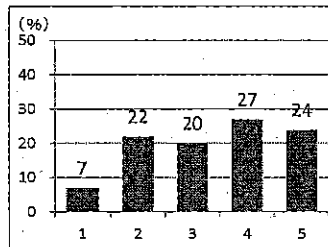
〔算数B〕



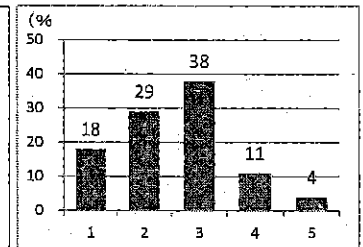
〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題は4, 5段階が84%であるが、B問題では中・下位層が多い傾向がみられる。
・記述への抵抗感がみられることから、日常において、思考の過程を表す活動を十分に行う必要がある。
・図や表を数学的に捉え、解決を図ることに課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題は、2～5段階の割合に差がなく、数学Bは、1～3の段階の割合が多い。基礎・基本及び活用する力ともに十分定着していない。
・事象を数学的に捉え、図表や数式に表現することに課題がある。

【改善策】

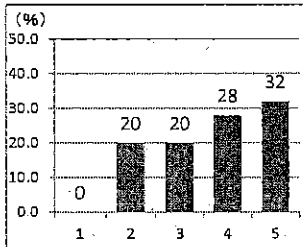
- 各校の研修へ、本町の指導主事やコアティーチャー等が参加して、授業づくりの支援や指導・助言を行う。
 - 思考力・判断力・表現力育成のため、各学校に対し、「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用に関する指導を継続的に行うとともに、定着状況の把握と補充指導の充実について指導を徹底する。
 - 定着が不十分であった問題については、学校全体で分析を行い、課題解決のための方策を共通指導事項として取り組むよう指導する。特に、以下の事項を、管理職研修会や各種研修会等で指導する。
- 〔小学校〕（国語科）事実と意見を区別しながら、目的や意図に応じて相手に分かりやすく伝える活動の推進を指導する。
- （算数科）身に付けた知識・技能を生かす活動を設定し、思考を深めるための場・手立ての工夫を徹底させる。
- 〔中学校〕（国語科）主体的な学びの方法を工夫させるとともに、自分の考えを論理的にまとめる指導を行う。
- （数学科）思考を数、式、図等で捉え、数学的に説明させる指導を行う。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

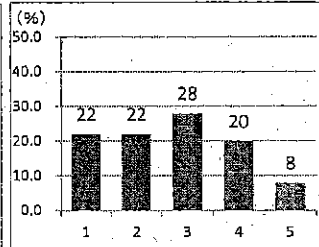
南大隅町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

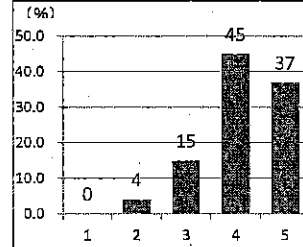


〈課題〉

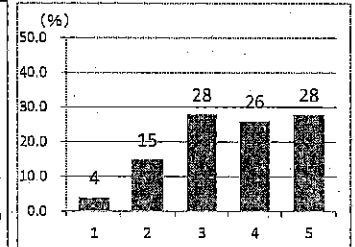
・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は60%、B問題では28%であることから、基礎・基本の確実な習熟とともに、それを活用する力を定着させる必要がある。
・図やグラフ等の意味を読み取ったり、関連付けて自分の考えを書いたりすることに課題がある。

【中学校】

〔国語A〕



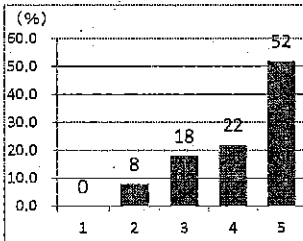
〔国語B〕



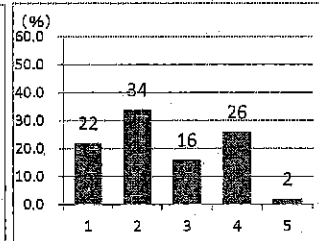
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は82%であるが、B問題では54%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は十分ではない。
・B問題では下位層・中間層の引き上げと上位層をどう伸ばすかが課題である。

〔算数A〕



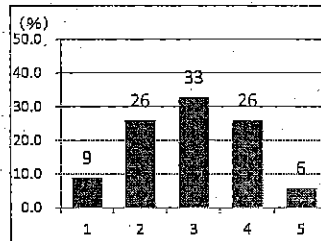
〔算数B〕



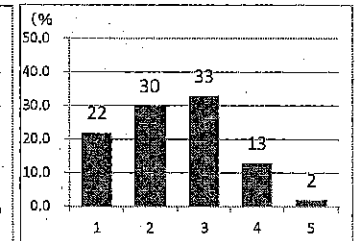
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は74%、B問題では28%であることから、それを活用する力は十分ではない。
・問題の解決に必要な情報を選択したり、情報を活用して問題を解決したりすることに課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況から、A・B問題共に下位層と中間層が多く、基礎・基本及び活用する力ともに十分定着していない。
・基礎的な事項の定着や数学的に表現された事項を読み取ることに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。

- 推進校における「授業サポートプロジェクト」に本町の指導主事や他校の教員も参加し、継続的な学校訪問を通じた授業づくりの支援や指導・助言を行う。
 - 定着が不十分であった問題については、補充指導の充実や教育課程への位置付けをするよう指導を行い、PDCAサイクルの構築を促す。
 - 中位層や上位層を伸ばす個に応じた学習活動(思考力・判断力・表現力)を充実させるために、「かごしま学力向上支援Webシステム」を活用するよう指導を継続する。
- また、以下の事項を各学校で推進するよう指導を行う。

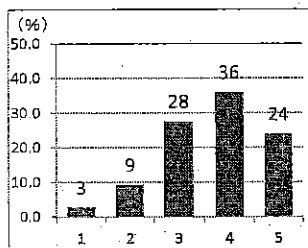
- 〔小学校〕(国語科)
 - ・表現の工夫を見つける活動やそれを互いに発表しあう場の指導の充実
 - ・自分が調べた内容を整理しながら書かせる場の指導の充実
 - ・基礎的・基本的事項の確実な定着を図る指導の充実
- (算数科)
 - ・筋道を立てて考え、情報を適切に読み取らせる指導の充実
- 〔中学校〕(国語科)
 - ・目的に応じて、情報の取り上げ方や書き方を工夫させる書く指導の工夫
 - ・目的に応じて、文章の特徴を捉える指導の工夫
- (数学科)
 - ・2量の関係を表や式で関連付けながらその意味を探究し理解する活動の重視
 - ・事象を数学的に解釈し、的確に処理し、説明する活動の重視
 - ・基礎的・基本的事項の確実な定着を図る指導の充実

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

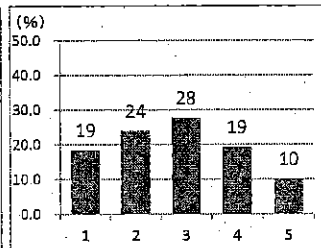
肝付町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



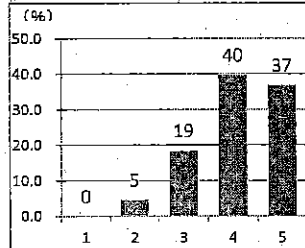
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は60%である、B問題では、29%であることから、活用する力は十分ではない。
 - ・目的や意図に応じて、表現をよりよくするために推敲すること
 - ・人物の性格や気持ちの変化などを複数の叙述から読み取ること
 - ・複数の図表やグラフを比較したり関係付けたりする力
- 以上のことに課題がある。

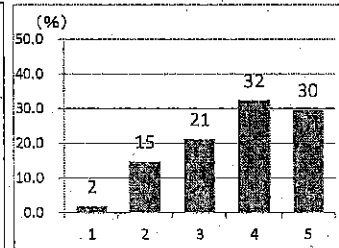
5段階の
分布状況

【中学校】

〔国語A〕



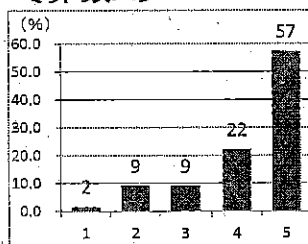
〔国語B〕



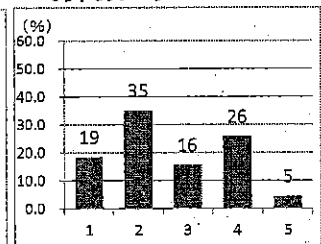
〈課題〉

- ・5段階分布状況について、A問題の4、5段階は77%で、B問題の4、5段階は62%であるが2、3の段階が36%であることから、中位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
 - ・伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くこと
 - ・集めた材料を整理して文章を構成すること
 - ・文章を読み返し、文の使い方などに注意して書くこと
 - ・伝えたい事柄に対して、根拠を明確にして書くこと
- 以上のことに課題がある。

〔算数A〕



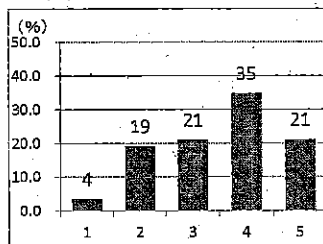
〔算数B〕



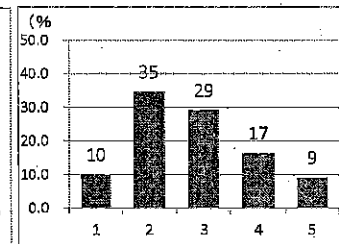
〈課題〉

- ・5段階の分布状況では、A問題では4、5段階が79%で、B問題では1、2段階が54%であることから、基礎基本は身に付いているが、活用する力は十分ではない。
 - ・問題場面を適切な式に表したり、式の意味を具体的な事象と関連付けたりする力
 - ・必要な情報を収集し、目的に応じて表やグラフを用いて表したり、適切な判断をしたりする力
- 以上のことに課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況から、基礎基本及び活用する力ともに十分定着していない。
 - ・比例の関係を表す表の特徴を捉えて、Xの値に対応するYの値をもとめること
 - ・与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理すること
 - ・事象を数学的に思考する場面で、問題解決の方法を数学的に説明すること
- 以上のことに課題がある。

【改善策】

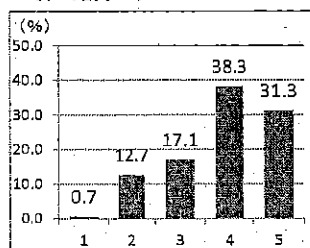
- 今後、以下示す事項について、本町の学力向上対策の実施の重点として取り扱うようにしていく。
- 大隅終末ベーシックを活用した授業設計を推進し、めあてとまとめに整合性のある授業を行わせる。
 - 拠点校における「授業サポートプロジェクト」に各校のコアティーチャーを積極的に参加させ、授業作りについての継続的な指導を行う。
 - 町学力向上対策委員会において、今回の課題から共通実践事項を見直し、実効性のあるものとする。
- また、以下の事項を、管理職研修会等で指導し、各校に取り組ませる。
- 〔小学校〕(国語科) ・言語感覚や語彙力を培う読書指導、日記指導の充実
・調べる内容を事前に整理したり、調べたことを分かりやすくまとめる学習(ペア、グループでの学習)
- (算数科) ・授業の中での、線分図やグラフを書きその意味を説明する学習活動の重視
・日常の事象の解決に、割合や単位量あたりの大きさを活用して、合理的かつ適切に判断する学習の充実
- 〔中学校〕(国語科) ・キーワードを抜き出し、キーワード同士の関係を整理したりして文章の内容や筆者の意見を読み取る学習の充実
・学校図書館やインターネットを利用し、主体的に情報を探していく学習活動を取り入れた授業改善
- (数学科) ・授業の中で式変形に用いられている等式の性質について、確認する場面の設定
・数学的な考え方を使い、実生活での問題を解決する活動の重視

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

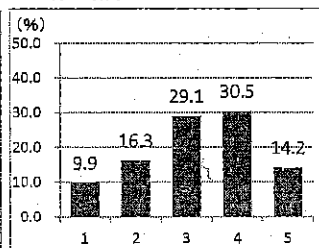
西之表市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕

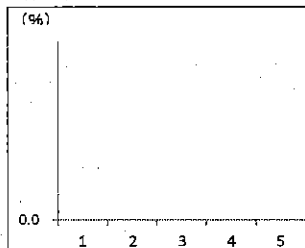


〔国語B〕



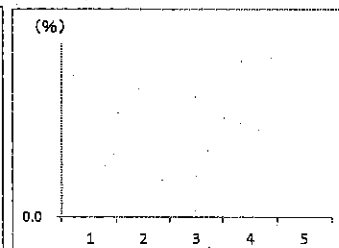
【中学校】

〔国語A〕



※ 小学校のみ公表

〔国語B〕

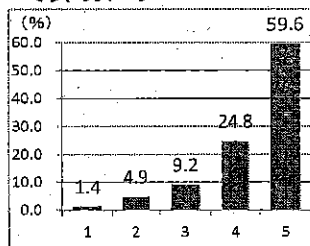


〈課題〉

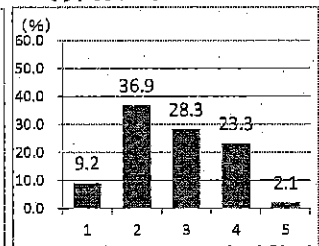
・A問題の全国平均以上と見られる4, 5の段階は69%であるが, 1~3の段階が30%であることから, 基礎・基本の定着の個人差が大きいが分かる。
・B問題では, 3~5の段階が73%であることから, 基礎・基本を活用する力が身に付いていることが分かる。
・ローマ字の読み書き等, 4年生までに学習した内容の定着に課題が見られる。

〈課題〉

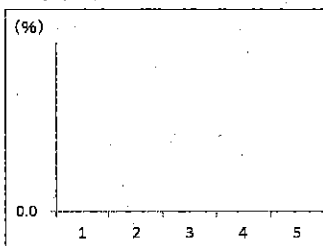
〔算数A〕



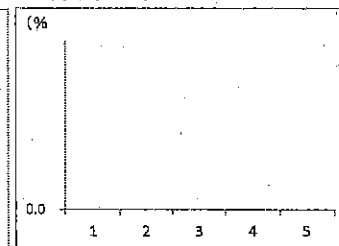
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・A問題では, 4, 5の段階が85%に近く, 基礎・基本が身に付いていることが分かる。
・B問題では, 1, 2の段階が46%であることから, 活用する力に課題があることが分かる。
・与えられた条件に合わせて, 自分の考えを説明することに課題が見られる。

〈課題〉

【改善策】

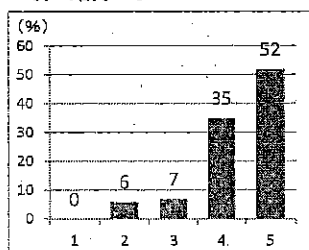
- 今回の調査結果を各校が検証し, 確かなCheckに基づくActionにつなげるよう, 指導・助言を行う。
- 1 小学校では, 昨年度に比べ, 無解答率が減少している。授業中に児童一人一人が思考し, 課題に粘り強く取り組む姿勢が育成されていることが分かった。「学び方を学ばせる」指導を継続して行うよう指導・助言する。
 - 2 校内研修への積極的な指導主事招聘を依頼し, 指導案検討の段階から授業づくりにかかわることで, 管理職とともに教師個々の授業力向上を目指す。
 - 3 土曜授業や予備時数を活用した基礎・基本の定着に係る取組を推進し, 互いの実践に学ぶことができるよう, 管理職研修会等の場で情報交換の場を設定する。
 - 4 今後, 学校内で互いの授業を見合う機会を増やしたり, 他校との合同研修, 市集合学習, 小中が連携した共同研修の機会を拡充したりしていく。その際に「授業改善のポイント」や「学びの羅針盤」を授業づくりのよりどころとして活用する。
 - 5 中学校の数学の学力向上を目的とする「市幼・保・小・中・高連携学力向上推進会議」において, 今年度の共通課題としている「図形領域の指導のあり方」について, 各校での実践を踏まえた共通の方策をまとめていく。
 - 6 学習状況調査とのクロス集計の結果から, 家庭での学習や読書, 趣味や手伝い等の時間をバランスよく配分することが, 学力向上の面でも効果が高いことが分かったため, 保護者との連携を図った指導に取り組むよう各校に指導・助言を行う。
 - 7 これらの取組について, 管理職との面談の場での報告や鹿児島県学習定着度調査での客観的な資料を用いて評価し, 各校の授業力向上に関する取組について指導・助言を行う。
- また, 以下の事項を, 管理職研修会や校内研修等で指導し, 各学校で取り組ませる。
- 〔小学校 国語科〕「伝統的な言語文化と国語科の特質に関する事項」の「イ 文字に関する事項」, 特にローマ字や当該学年までに配当されている漢字の読み書きの確実な習得が図られるよう系統的・計画的な指導を徹底させる。
- 〔小学校 算数科〕課題解決に至った過程を, 与えられた条件に合わせて説明したり記述したりする活動を取り入れ, 本時の学習を振り返る活動を確実に位置付けるよう指導・助言する。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

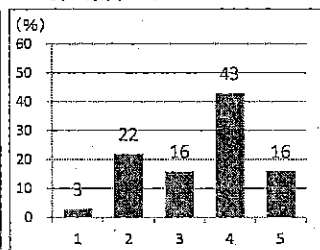
中種子町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕

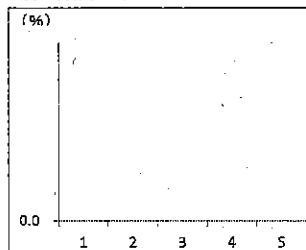


〔国語B〕



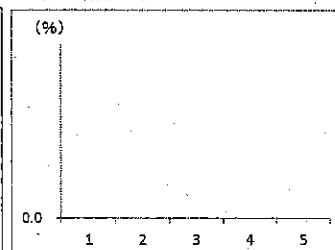
【中学校】

〔国語A〕



※ 小学校のみ公表

〔国語B〕

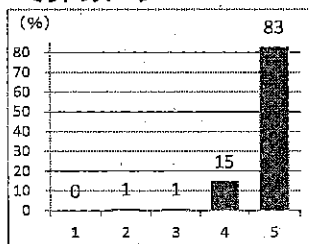


〈課題〉

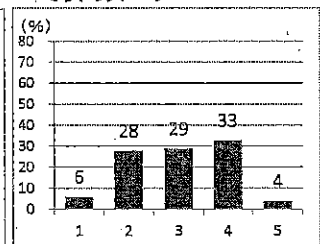
・5段階の分布状況について、A問題の4, 5段階の割合は87%であるが、B問題については59%であり、さらに2段階にもう一つ山ができてしまうので、このグループを少しでも3, 4段階に高めることが課題である。
・B問題のグラフを基に分かったことを書く問題の通過率が低いので、図やグラフ等から読み取ったことを、適切に表現することが課題である。

〈課題〉

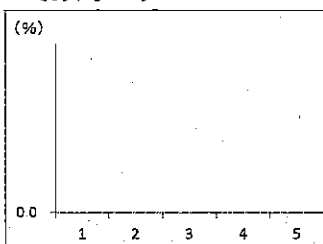
〔算数A〕



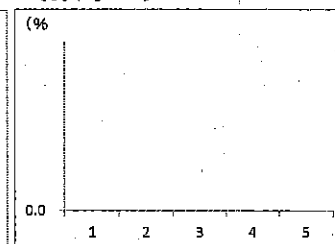
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4, 5段階の割合は88%であるが、B問題については37%、1, 2段階も34%であり、活用する力は十分であるとは言えない。
・数の表す意味を考えたり、式の意味を説明したりする問題の通過率が低い。無答率は高くないので、大切な言葉を落とさずに、論理的に説明をすることが課題である。

〈課題〉

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り組んでいく。

- 問題レベルでの分析を行い、通過率が低かった問題については、補充指導の徹底や授業の中での取組についての検討・改善を行わせるなど、各学校でPDCAサイクルの充実が図られるよう、見届けを確実に行う。
- 継続的な学校訪問を通して、「授業参観の視点」や「ゴールや方法の明確化」等に基づく授業づくりの支援や指導・助言を行う。
- 全体的なレベルアップを図るために「かごしま学力向上支援Webシステム」の計画的な活用を推進するよう、各学校への指導を徹底する。
- 小規模校の交流学习を推進し、多様な意見・考え方に触れたり、自分の考えをまとめて表現したりする機会を設定する。

また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。

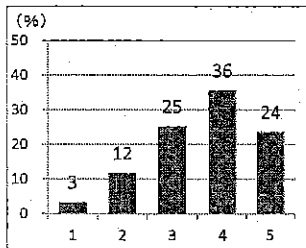
〔小学校〕（国語科） 的確に読み取り、大切な言葉を落とさずに表現する活動に取り組ませる。

（算数科） 数字の意味や式の意味を確実に押さえて、考えを説明する活動を徹底させる。

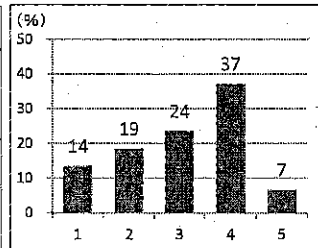
平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

南種子町教育委員会

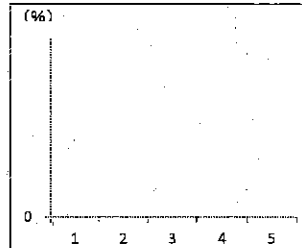
【小学校】 〔国語A〕



〔国語B〕

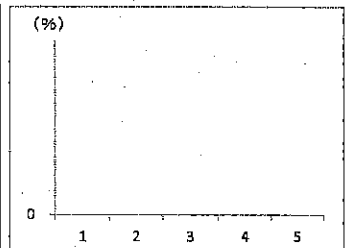


【中学校】 〔国語A〕



※ 小学校のみ公表

〔国語B〕

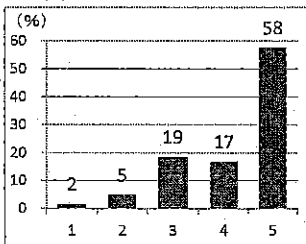


〈課題〉

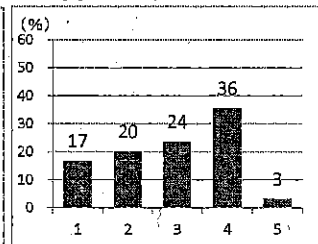
・5段階の分布状況について、A問題は上位層が60%、B問題については44%である。中・下位層の基礎学力の向上と全体的に活用力の向上について、指導法の改善が必要である。
・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことや読むこと、ローマ字の書きや読みについて確実な習得に向け、継続的な取組が必要である。

〈課題〉

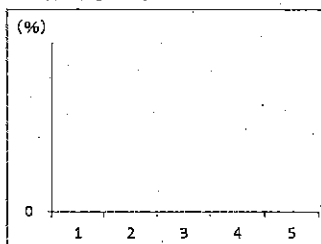
〔算数A〕



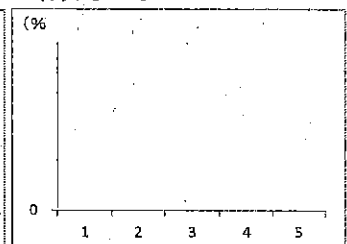
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題は上位層が75%、B問題については39%である。B問題に対して下・中位層が61%であるため活用力向上が課題である。
・図形の学習においては、具体物を用いるなどして図形についての感覚を豊かにしたり、図形の性質を実感的に理解したりする取組が必要である。

〈課題〉

【改善策】

- 今後、以下の事項を本町の学力向上の重点施策として取扱う。
- ◎各学校における「こだわりの視点」(基礎学力の向上に特化し、即効性があり、変容を評価できる取組)についてPDCAサイクルの状況を把握し、確実な実践を促す。
- ◎授業の終末に学習内容を「振り返る」活動を確認に取り入れ、学習内容の定着と個に応じた指導の充実を図る。
- ◎かごしま学習支援WEBシステムの効果的な活用を図る。

また、以下の事項を管理職研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。

〔小学校〕

〔国語科〕

○日常生活において学年別漢字配当表に示されている漢字を適切に使うことができるように指導を工夫する。

○各教科等において目的や意図に応じて自分の考えを書く機会を十分に取り入れる。

〔算数科〕

○日常生活の事象を数理的に捉え、場面を適切な式に表したり、式の意味を具体的な事象と関連付けたりすることで問題を解決する学習を充実する。

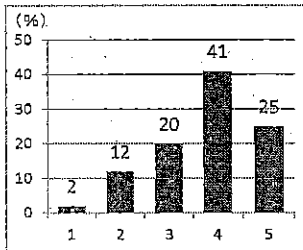
・示された図や情報を基に、場面的に捉えることができるようにする。

・示された式について、式の意味や数値の意味を理解し、説明する活動を取り入れる。

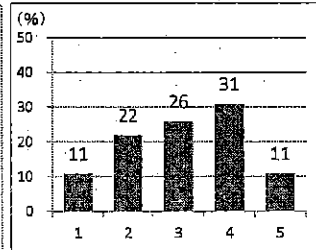
平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

屋久島町教育委員会

【小学校】 〔国語A〕



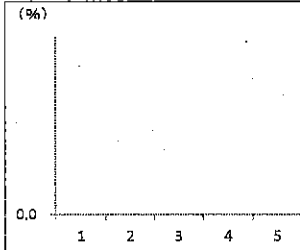
〔国語B〕



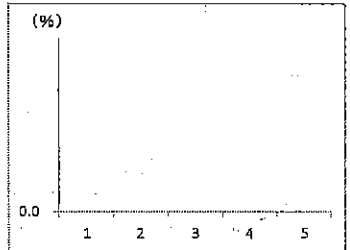
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、A問題の4, 5段階は66%であるが、B問題では42%であることから、基礎・基本は、身に付いているが、それを活用する力は十分ではない。
- ・ 目的や意図に応じて自分の考えを整理して書いたり、グラフをもとに分かったことを的確に書いたりすることに課題がある。

【中学校】 〔国語A〕

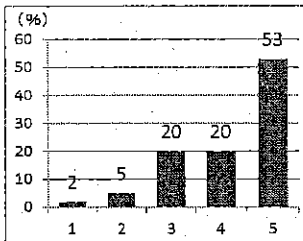


※ 小学校のみ公表 〔国語B〕

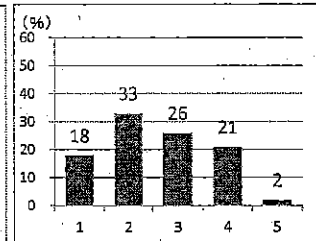


〈課題〉

〔算数A〕



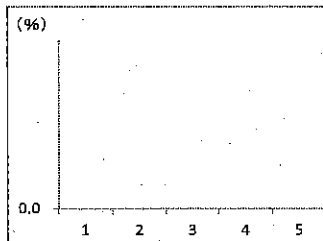
〔算数B〕



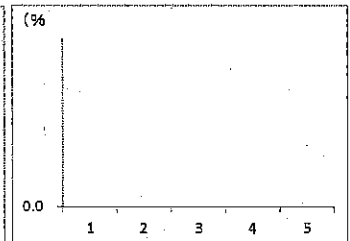
〈課題〉

- ・ 算数Aでは5の児童が5割をしめる。Bでは5の児童は極端に少なく、1, 2で5割をしめるなど下位層が多い傾向が見られる。
- ・ 示された式や説明, 図, グラフ等を読み取って、自分の考えをもとに判断したり、その根拠や理由を筋道立てて記述したりする力に課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

【改善策】

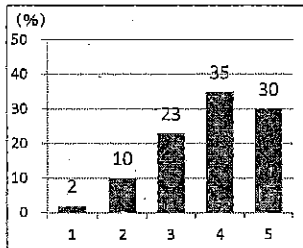
- ※ 各学校に正答率, 無回答率, 誤答傾向等の分析をしっかりと行わせ, 実態の把握と重点課題を明確にさせる。
- ※ 今後, 以下に示す事項について, 本町の学力向上施策の実施の重点として取り組んでいく。
 - 校内研修, 研究授業等において, 本町の指導主事やコアティーチャーも一緒に参加して, 継続的な学校訪問を通じた授業づくりの支援や指導・助言を行う。
 - 下位層や中位層を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるために, 「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用について, 各学校への指導を徹底する。
 - 以下の事項を管理職研修会や各学校における研修会等で指導し, 取り組ませる。また, 各学校でPDCAサイクルの充実が図られているか, 見届けまで確実に行う。
 - ・ 一人一人の実態に応じた個別指導の充実
 - ・ 基礎的・基本的な知識及び技能の反復練習の充実 (基礎学力の定着(「こだわりの視点」)の共通実践)
 - ・ 全職員が納得して, 徹底して取り組む視点を設定する。[組織的, 継続的な実践]
 - ・ ゴール(長期)と段階的な数値目標(短期・中期)を設定する。[達成目標の設定]
 - ・ 定期的に評価し, 改善を図る。[PDCAサイクルにおける実践]
 - ・ 中学校区ごとに基本的学習習慣系統表を活用させ, 学習の基盤づくりを徹底する。
 - ・ 「授業を見る視点」を積極的に活用させ, 分かる・楽しい授業の実践化を図る。(校内研修, 学校訪問での指導)
 - ・ 「活用」に関する過去問題をピックアップし, 定期的・継続的に取り組ませ, 活用問題に慣れさせていく。
- 【小学校】(国語科) テーマを与えて自分の考えや伝えたいことを整理して書く活動を意図的に位置付けさせる。
(算数科) 授業の中で, 視点を示して問題解決の過程を記述する活動を意図的に位置付けさせる。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

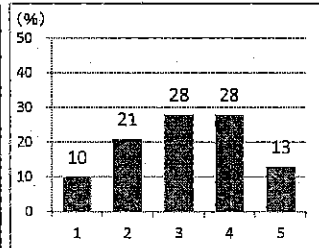
奄美市教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

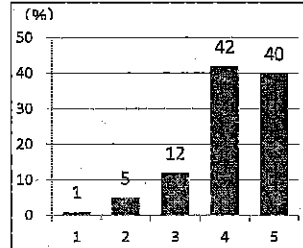


〈課題〉

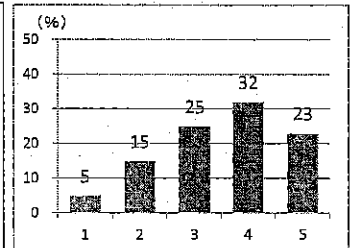
- ・A問題の分布状況は5の段階が全国より若干少なく、B問題は全国とほぼ同様の分布であった。
- ・漢字を正しく書く、ローマ字を読む・書く等、基礎・基本が十分定着していない部分が見られた。
- ・目的や意図に応じ、話の展開に沿った質問を書いたり自分の考えを書いたりする記述式の問題に課題が見られた。同問題の無解答率は、改善が見られた。

【中学校】

〔国語A〕



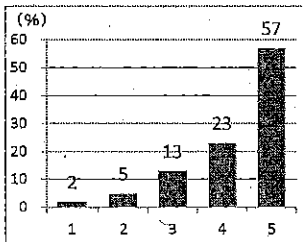
〔国語B〕



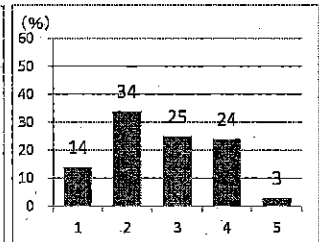
〈課題〉

- ・A問題の分布は全国とほぼ同様、B問題は5の段階が少ない状況であるが、全体としては昨年度より改善が見られた。
- ・漢字の読み書き、適切な語句や文法の理解等、基礎的・基本的な知識・技能が十分定着していない部分がある。
- ・必要な情報を読み取り、自分の考えを根拠を明確にして書くことに課題がある。

〔算数A〕



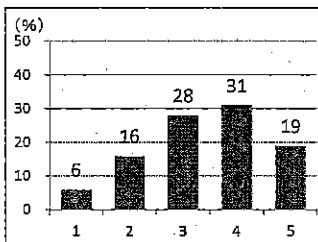
〔算数B〕



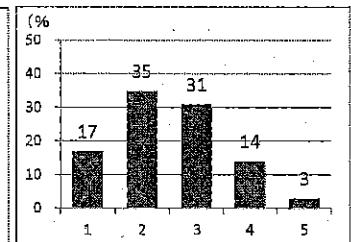
〈課題〉

- ・A問題は、全国に比べ若干5の段階の分布が少ない。B問題は昨年度より1の段階の分布が多かった。
- ・基礎的・基本的な知識・技能は身に付いているが、それらを十分に活用できていない。B問題の記述式の正答率は全国より低く、根拠となる事柄を過不足なく説明することに課題が見られた。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・A問題は上位層は少ないが、1・2の段階の割合が減少した。B問題は1・2の段階の割合が引き続き多い状況である。
- ・数量の関係を文字式で表す等、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る必要がある。
- ・判断の理由を数学的な表現を用いて説明したり、問題を解決する方法を数学的に説明したりすることに課題がある。

【改善策】

- 指導主事の定期的な学校訪問等を通して、授業改善に向けて具体的・重点的な指導を実施する。各学校における課題解決のための具体的な方策がどの程度実施されているか定期的に把握できるようにする。その際、本市の「学力向上対策・授業改善5つの方策」を確実に実践させるとともに、以下について各学校に取り組ませる。

〔小学校〕

- (国語) ・ 学ぶことの目的意識をもたせる学習課題の設定と課題解決に必要な思考活動の実施
- ・ 自分で考えたことを伝えたり話し合ったりする相互解決の場の確保と自分の言葉によるまとめの実施
- ・ 漢字やローマ字の読み書き等、基礎・基本の確実な定着と習熟を図る時間の設定
- (算数) ・ 文章や絵図を使って、自分の考えたことをまとめ算数的言語を使って説明する活動の重視
- ・ 机間指導の充実による個々の状況の把握と学習のまとめ及び見届けの確実な実施

〔中学校〕

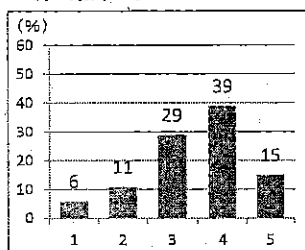
- (国語) ・ 情報的的確に読み取り、理由や根拠を明確にして自分の考えを書く活動の設定と確実な実施
- ・ 基礎・基本を確実に定着させるための指導の充実と習熟を図るための時間の確保
- (数学) ・ 学ぶことの目的意識をもたせる学習課題の設定と基礎・基本の確実な定着を図る繰り返し学習の実施
- ・ 自力解決や相互解決における判断の根拠や理由を明確にし、数学的な表現を用いて説明する活動の設定

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

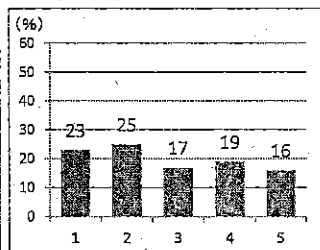
瀬戸内町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕

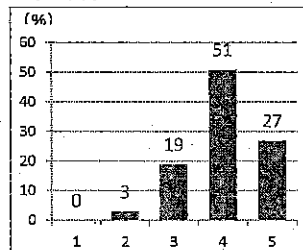


〔国語B〕

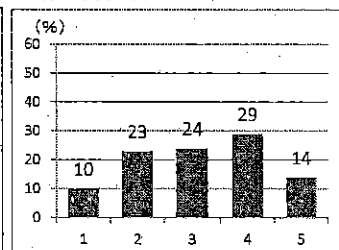


【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



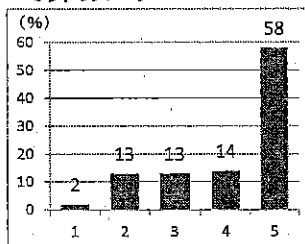
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題では下位層が多く、上位層が少なく、B問題では1、2の段階の児童が多い。基礎・基本の定着が不十分であると同時に、活用する力が定着していない。
- ・漢字やローマ字の読み書きといった基礎的・基本的内容の確実な定着を図ることが課題である。
- ・目的や意図に応じて自分の考えを記述することに課題がある。
- ・国語Bの記述式の問題形式における無解答率が高いので、個に応じた詳細な実態把握と具体的な指導・支援が必要である。

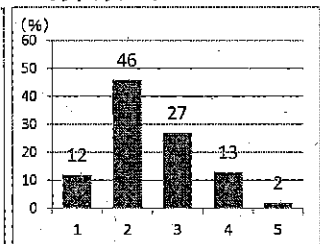
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題では3の段階の生徒がやや多めであるが、概ね基礎・基本の定着が見られる状況である。B問題では各段階の割合の差が少なく、しかも1～3段階の生徒の割合が約6割を占めることから、活用する力が不十分である。
- ・記述式の問題形式になると正答率が低くなる傾向が見られる。特に、相手に効果的に伝わるように自分の考えを言ったり、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書いたりすることに課題がある。

〔算数A〕



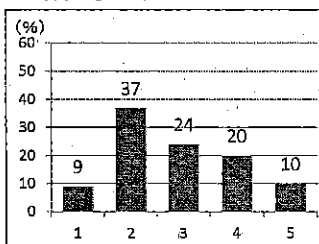
〔算数B〕



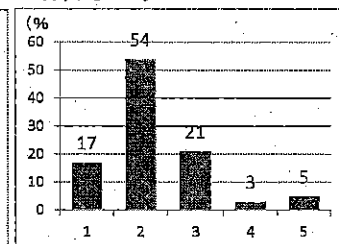
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題では2の段階の児童がやや多めであるが、概ね基礎・基本の定着が見られる状況である。B問題では、2の段階の児童が約半数であるのと同時に、4、5の段階の児童が少ないことから、活用する力が不十分である。
- ・問題場面を適切に読み取る力や、「割合」についての考え方の定着に課題がある。また、説明や理由を記述することにも課題がある。
- ・算数Bの記述式の問題形式における無解答率が高いので、個に応じた詳細な実態把握と具体的な指導・支援が必要である。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題、B問題ともに2の段階の生徒の割合が多く、1～3の段階の上位～下位層の生徒の割合がA問題で7割、B問題9割を占めており、基礎・基本及び活用する力、ともに定着が不十分である。
- ・自然数や解、錐体の体積など、基本的な事項についての理解の定着が不十分である。
- ・必要な情報を適切に選択して理由を説明したり、「証明」などの数学的な表現を用いて説明したりすることに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の重点として取り組んでいく。

- 各学校において、定着が不十分であった問題やその内容について詳細に分析を行わせると同時に、補充指導の徹底、各校で策定している「学力向上アクションプラン」の見直しや地区で推進している「授業充実の3ポイント」の徹底をさらに進め、学力向上への全校体制での実効性ある取組を徹底させるとともに、見届けを確実にを行う。
- 個に応じた学習指導を充実させるために、児童生徒一人一人の詳細な実態把握と今後の具体的手立てについて研修を深め、実践していくよう指導を徹底し、見届けまで確実にを行う。
- 年間を通じた校内研修における研究授業の機会も含め、拠点校における「授業サポートプロジェクト」に本町指導主事も積極的に参加したり、本町のコアティーチャーが各教科部会等で積極的に授業研究を行ったりする中で、より積極的に質の高い授業づくりへの指導・助言を継続的にを行う。
- 各教科における基礎的・基本的事項の確実な定着も視野に入れつつ、より個に応じた学習指導を充実させるために、「かこしま学力向上支援Webシステム」や各校に配備した学習ソフトの積極的な活用を継続的に指導していく。

また、以下の事項について管理職研修会や教務主任等研修会、校内研究授業等の機会等で指導し、各学校で取り組ませる。

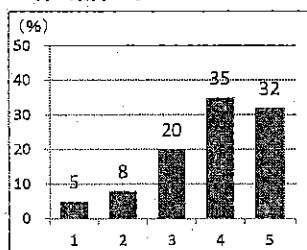
- 〔小学校〕(国語科) 自分の考えをしっかりともち、それを整理し、目的や意図に応じて記述させる場を学習の中に意図的・計画的に設定させる。
(算数科) 筋道を立てて考えた過程を振り返り、自分の言葉で記述したり、発表したりする場を学習の中に意図的・計画的に設定させる。
- 〔中学校〕(国語科) 相手に効果的に伝わるように表現を工夫したり、常に根拠を明確にすることを意識したりさせながら自分の考えを記述させる場を学習の中に意図的・計画的に設定させる。
- (数学科) 基礎的・基本的な事項については過去の学年の内容に遡って確認し、確実な定着を図らせる。また、筋道を立てて考えた過程を振り返り、数学的な表現を用いて記述させたり、考えた理由について説明させたりする場を学習の中に意図的・計画的に設定させる。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ、課題、改善策)

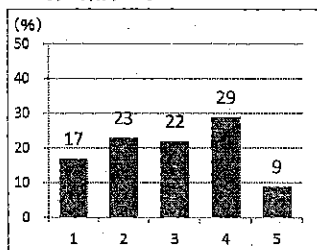
龍郷町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

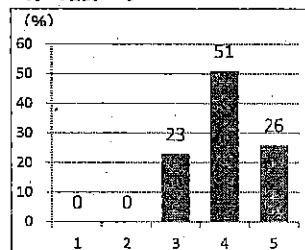


〈課題〉

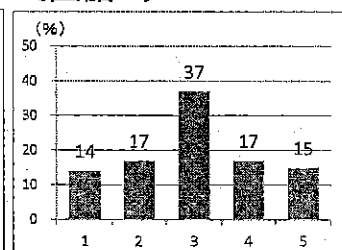
・5段階の分布状況について、A問題の4、5の段階は67%であるが、B問題では38%であり、1、2の段階にいたっては40%であることから、活用する力に課題がある。
・目的に応じて、情報を整理したり、取捨選択したりして表現すること、話し手や聞き手、登場人物等の行動等に対する意図を的確に捉えることに課題がある。

【中学校】

〔国語A〕



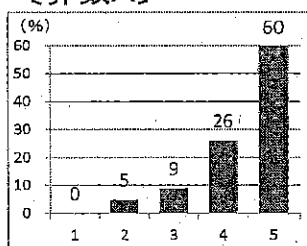
〔国語B〕



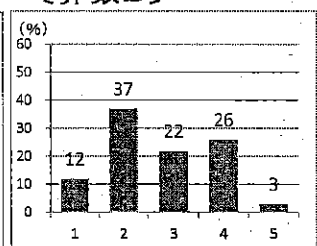
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題では中位層が、B問題では下位、中位層が多い。全体的な底上げとともに、上位層をどう伸ばしていくかが課題である。
・A問題、B問題ともに、記述式の問題に対する無解答率が全国・県平均を大きく上回る。
・伝えたいことを効果的に相手に伝わるように書くこと、必要な情報を読み取り根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。

〔算数A〕



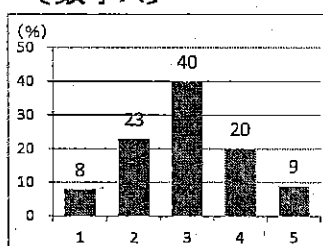
〔算数B〕



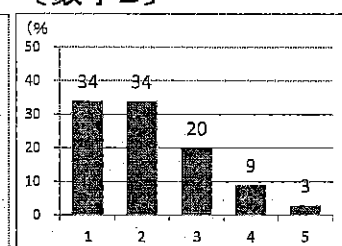
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題では5の段階が最も多くなっているが、B問題では下位層が多く、活用力を身につけさせる抜本的な授業改善が必要である。
・示された情報を整理、解釈し、問われていることについて根拠を明確にして表現することに課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題では2の段階、3の段階が多いこと、B問題では1～3の段階が多いことから、基礎・基本及び活用する力ともに十分定着していないと言える。抜本的な授業改善が必要である。
・数学的に表現したり、数学的に表現された事柄を読み取ったりする問題については、無解答率が高い。
・関数全般に課題が見られる。

【改善策】

- 今後、「質の高い授業」を目指し、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
- 本町指導主事が、校内研修や日常的な授業参観等、継続的な学校訪問を通じた授業づくりの支援や指導・助言を行う。
 - 個に応じた学習活動を充実させるために、「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用について、各学校への指導を徹底する。
 - 「学力向上アクションプラン」を幹とした授業改善を継続する。(管理職研修会、学校訪問での指導)
 - 定着が不十分であった問題に関する補充指導については、PDCAサイクルの充実が図られているか、見届けまで確実に行う。

また、以下の事項を、管理職研修会や学校訪問等で指導し、各学校で取り組ませる。

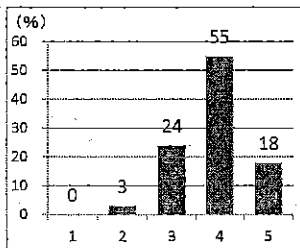
- 〔小学校〕(国語科)・目的や意図に応じて、根拠や自分の立場を明確にした自分なりの表現ができるように、適切かつ効果的に助言する指導を行う。
(算数科)・自分なりの考えを説明したり、お互いの考えを比較・検討したりする活動及び習熟を図る学習活動を徹底させる。
- 〔中学校〕(国語科)・目的に応じて伝えたい内容を適切に表現できるよう、書く指導を意図的に設定する。
(数学科)・基礎的・基本的な内容の系統的・計画的な復習とともに、言葉や数、式、表、グラフ等の相互の関連を考えさせる指導を行う。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ、課題、改善策)

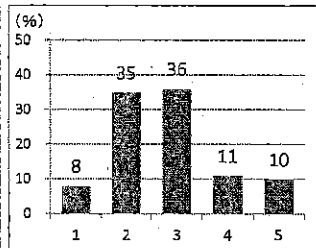
喜界町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



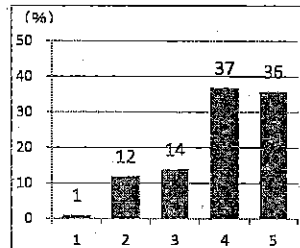
〔課題〕

・5段階の分布状況について、A問題については4、5の段階が73%であるが、B問題については22%であることから、基礎的・基本的事項については身に付いているが、それらを活用することが十分でない。

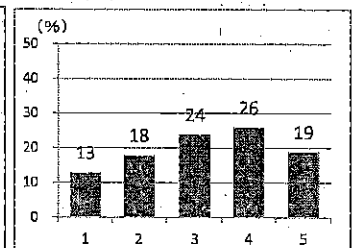
・目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたり、目的に応じて整理したりしながら記述することに課題がある。

【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

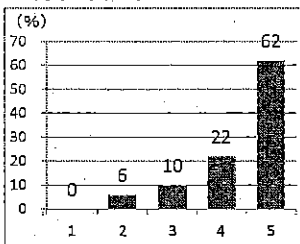


〔課題〕

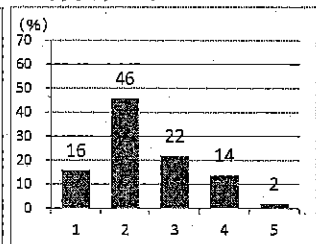
・A問題では、4、5の段階が73%であることからおおむね知識については理解しているが、B問題では、全ての段階で差があまり見られないことから、全体的な活用能力の底上げが必要である。

・文章の中心と部分とを読み分けて要旨を捉えたり、文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に記述することに課題がある。

〔算数A〕



〔算数B〕

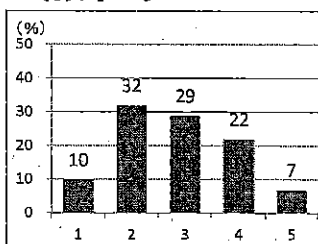


〔課題〕

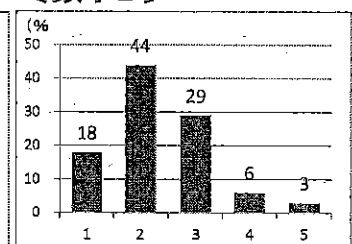
・A問題では5段階が62%であるが、B問題では1、2の段階が62%であることから、基礎的・基本的事項については身に付いている児童が多いが、それらを活用することが十分でない。

・示された説明を解釈し、別の場面に適用して記述することや、グラフから読み取ったことを根拠にしながら記述することに課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〔課題〕

・5段階分布の下位層、中位層の割合が多いことから、基礎的・基本的事項及び活用する能力ともに十分に定着していない。

・筋道を立てて考え、証明したり、必要な情報を選択し、数学的に表現したりすることに課題がある。また、記述については無解答率も高い傾向にある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施重点として取り扱っていく。

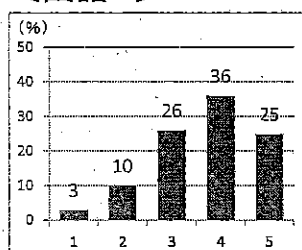
- 授業充実の3ポイントである「目標の明確化」、「山場の工夫」、「確かめ・見届け」を徹底させ、小・中一貫した質の高い授業を目指す。
- 一人一研究授業を通して、主体的・対話的で深い学びのある授業になるよう、授業づくりから授業後のサポートまで指導主事が積極的にかかわれるようにする。
- 毎日の教材研究が確実になされ、日々の授業を改善するために、公務や行事の精選を行う。
- 理由や根拠を明確にしながらかん道立てて説明したり記述したりできるようにするために、「かごしま学力向上支援Webシステム」及び町作成の問題集活用を教育課程に位置付ける。
- 指導主事が「授業参観サポート」「授業づくりサポート」「授業実践サポート」をととして、積極的に授業改善にかかわれるようにする。
- 中学校においては、質の高い授業の在り方を共有するために、他教科の授業参観を推進し、積極的に情報交換ができるようにする。
- 小・中一貫した質の高い授業を共有するために、拠点校における「授業サポートプロジェクト」に、小学校からも積極的な参加を呼びかける。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

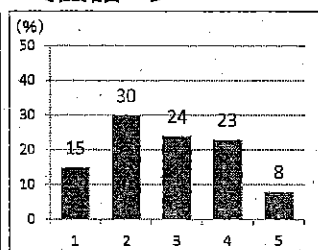
徳之島町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



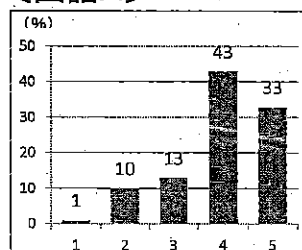
〈課題〉

国語Aは、中位層(5段階分析の3, 4の段階)が多く、基礎的・基本的な学習内容の定着は概ね良好といえる。

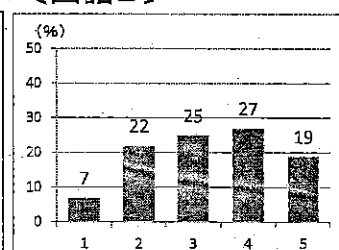
国語Bでは、5段階分析の1の段階が全体の15%であり、その内の8.5%が無答であるため、記述式の問題や思考力、表現力、判断力を育てる指導の在り方を授業改善の視点に位置付ける必要がある。また、分布が二極化しているため、個に応じた指導の充実は無条件のこと教え合いや学び合いの場をこれまで以上に設定し相互のよさを生かす繰り返しの授業を充実していく必要がある。

【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



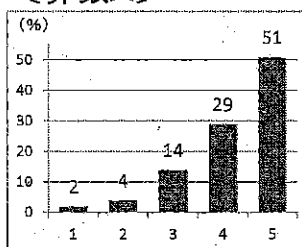
〈課題〉

国語Aは、上位層(5段階分析の4, 5の段階)が全体の76%を占めており、基礎的・基本的な学習内容の定着は非常に良好といえる。

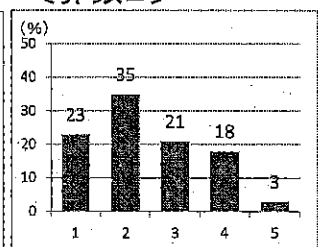
また、国語Bでは、5段階分析の2, 3, 4, 5の段階に概ね20%ごとのかたまりができており、それらを1段階ずつ伸ばすことができるような指導が必要である。

5段階分析で1の段階には無答が全体で2名、1問正解が6名いる。その生徒には個別指導を行い、問題の解き方や書き方を丁寧に指導する必要がある。

〔算数A〕



〔算数B〕

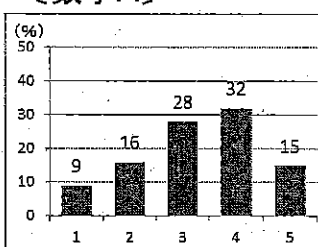


〈課題〉

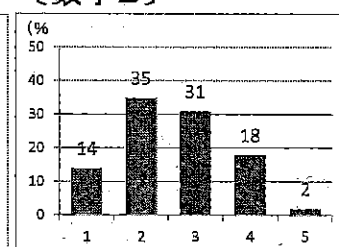
算数Aは、4, 5の段階(その内5の段階が51%)の児童が80%を占め、基礎的・基本的な内容は非常に良好といえる。

算数Bでは、算数Aで得られた知識が生かされているとは言えない状況が出ている。5段階分析で1, 2の段階が全体の約60%を占めているため、主体的対話的学習につながるよう授業改善を図る必要がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

数学Aは、5段階分析で3, 4, 5の段階が全体の75%を占める等、基礎的・基本的な学習内容の定着は概ね良好といえる。今後は、5段階分析で1, 2の段階の生徒へ繰り返し指導を行い、確実な定着を図る必要がある。

数学Bでは、小学校と同様に、5段階分析で1, 2の段階が全体の49%を占めている。下位層を伸ばすために上位層との関わりを意図的に設定し主体的対話的学習につながるよう授業改善を図る必要がある。

【改善策】

(共通)

- 授業充実3ポイント(目標の明確化、山場の設定、確実な見届け)の日常化
- 山場を充実させるための①主体的で効果的な目標設定、②リヴィオイングを含めた教師の効果的な発問、問い返し、聴き取り等の指導法の定着③書く活動の日常化(めあてやまとめを子ども自身の言葉で)
- 授業と連動した家庭学習の充実
- 学習習慣系統表による小中9か年間一貫した指導の充実
- 過去問を授業改善の拠り所にした授業研究の充実

【授業において】

- 1 めあてとまとめの整合性のある授業を行うために、まとめから授業づくりをする。
- 2 終末定着の時間10分確保実現のために、小学校35分、中学校40分で授業づくりをする。
- 3 子どもが主体的に活動する時間を確保するために、5分間教師が話をしない時間を設定する。
- 4 授業研究会では、反省で終わるのではなく代案作成までを行うようにする。

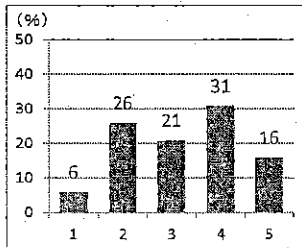
※ これらをPDCAサイクルに基づいて、継続して行うよう指導する。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ、課題、改善策)

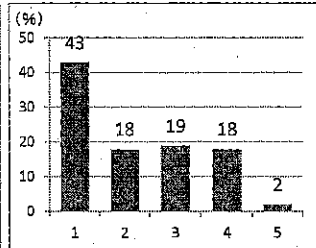
天城町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



〈課題〉

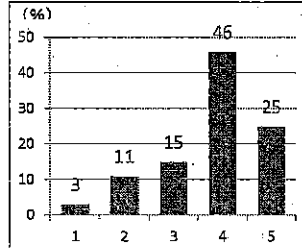
・5段階の分布状況について、A問題の4、5の段階が47%であり、50%に満たないことから、1～3の段階の基礎・基本の定着が求められる。また、B問題の1、2の段階が61%であり、半数以上を占めていることから、3の段階以上へ向けて活用する力の定着が求められる。

・特に話し手の意図をとらえ、質問を考えたり、書き手の表現をよりよくするための助言を考えたりすることに課題が見られる。

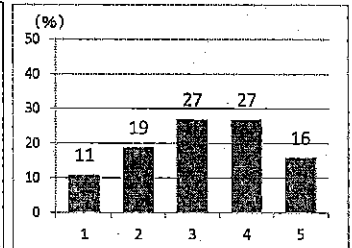
・その原因としては、学習中のペア学習やグループ学習自体が目的化し、互いの学びに生かされていないことが考えられる。

【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



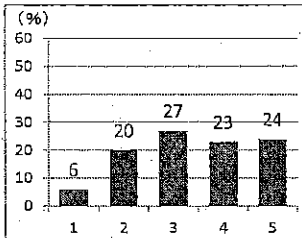
〈課題〉

・5段階分布において、A問題の4の段階が46%であり、ほぼ50%であることから、5の段階へ向けて基礎・基本の定着が求められる。また、B問題の1～3の段階が57%であり、半数以上を占めていることから、4、5の段階へ向けて活用する力の定着が求められる。

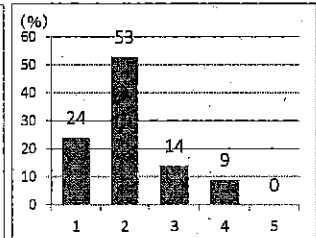
・特に各観点において、短答式や記述式の問題に対して自分の考えを具体的に書くことに課題が見られる。

・その原因としては、学習問題の解釈が十分でなく、目的意識や相手意識が曖昧になっていることが考えられる。

〔算数A〕



〔算数B〕



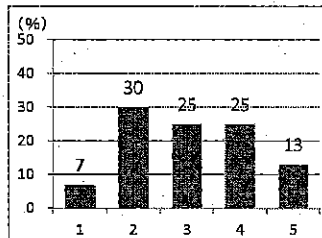
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5の段階が47%であり、50%に満たないことから、1～3の段階の基礎・基本の定着が求められる。また、B問題の1、2の段階が77%であり、半数以上を占めていることから、3の段階以上へ向けて活用する力の定着が求められる。

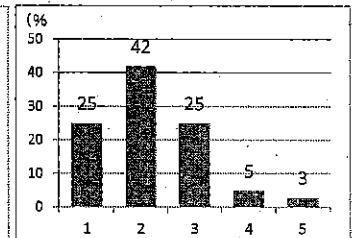
・特に図形の構成要素について考えたり、答えの根拠を記述したりすることに課題が見られる。

・その原因としては、学習中に図形に触れ図形感覚を培ったり、日常生活と結びついた課題に取り組む経験が十分でなく、実感を伴った学びになり得ていないことが考えられる。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4の段階が25%であり、50%に満たないことから、5の段階へ向けて基礎・基本の定着が求められる。また、B問題の1～3の段階が92%であることから、4、5の段階へ向けて活用する力の定着が求められる。

・特に資料の活用の領域において、資料の傾向を適切にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。

・その原因としては、学習課題に対して、直感的な思考で終始し、既習の何が活用できるかという観点で分析的に考えることが十分でないことが考えられる。

【改善策】

上記の傾向や課題、その原因を踏まえ、「共通実践事項」と「各教科の指導の重点」に整理し、本町の学力向上施策とする。

○「共通実践事項」では、学力向上の具体的な道筋を明確にすることを念頭に置く。

【共通実践事項】「アクションプラン」を基に、実現の具体的な状況を学校全体で明確にする。

・「授業充実の3ポイント」を具現化した子どもの姿を明確にする。

・「学力向上Webシステム」が自分たちの学習指導にどう生かせるかという視点で捉え直し、改善策を明確にする。

○「各教科の指導の重点」では、「原因をどう解決するか」という視点から設定し、管理職研修会や校内研修会等で一貫して指導する。

〔小学校〕（国語科）学習中のペア学習やグループ学習の際、何を解決するための活動かを教員とも明確にし、そこで学び得たことを共有する指導を行う。

（算数科）子どもが実際の経験を伴って思考したり、解決に向かい試行錯誤し、疑問や矛盾を表現できる時間のある指導を行う。

〔中学校〕（国語科）何を解決するため、誰に伝えるための課題なのかを明確にし、多様な考えの中から、自分の考えをより明確にする指導を行う。

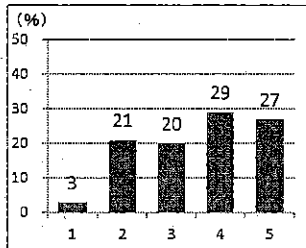
（数学科）一つの課題を解決して終わりではなく、数値等を変えた発展問題を扱い、既習を活用して解決した経験をさせる指導を行う。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

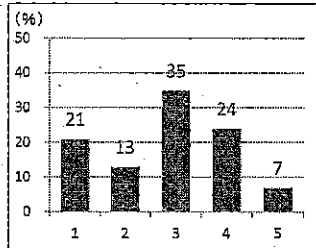
伊仙町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



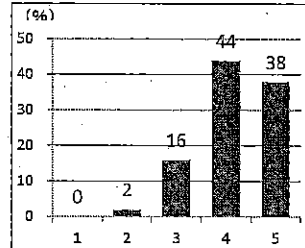
〈課題〉

・5段階の分布状況については、A問題においては、4・5の段階が約56%で、多くなっている。B問題においては、特に3の段階が多い傾向が見られる。A問題においては、特に2の段階の児童の力を高めていく必要がある。B問題では、1・3の段階の児童の力を高めていく必要がある。

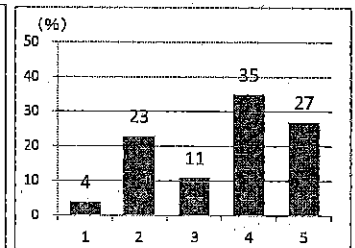
・観点別に見ると特に、書く領域に課題があり、目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書いたり、活動報告文において、課題を取り上げ効果をもたせたりするといった問題を苦手としていることから、関連単元の充実と日々の取組の充実が必要である。

【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

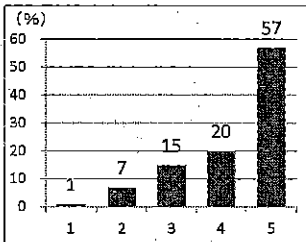


〈課題〉

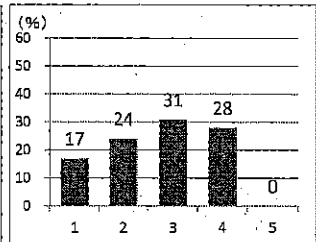
・5段階の分布状況については、A問題においては、約82%が4・5の段階にある。B問題に関しては、4・5の段階が約61%となっている。2の段階の生徒が約23%おり、3の段階の倍いることからこの段階の生徒への指導の充実が求められる。

・観点別に見ると、B問題において、文章の構成を捉える、目的に応じて文章を要約するといった説明的文章の読みの領域に課題が見られることから、この領域の指導方法の工夫が必要である。

〔算数A〕



〔算数B〕

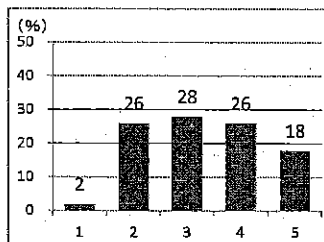


〈課題〉

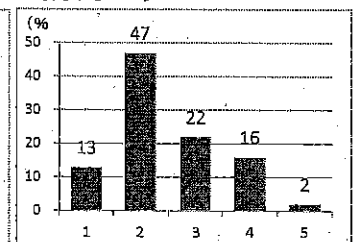
・5段階の分布状況については、A問題においては約77%が4・5の段階であることに対して、B問題においては、5の段階の児童が少なく、3・4の段階が増える傾向にあり、この段階の底上げが必要である。

・観点別に見るとA問題もB問題も数量関係に課題がある。A問題では、定員と乗っている人の割合を、1を超える百分率で表すための基準量と比較量の関係に課題が大きい。B問題では、グラフの情報を根拠に、示された事柄が妥当でないことを論述することに課題が見られた。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況については、A問題においては2～5の段階にそれぞれ約20%程度の割合で生徒が分布している。B問題においては、1・2の段階に60%の生徒がおり底上げが必要である。

・観点別に見ると、A問題においては、反比例のグラフから式を、一次関数の式から変化の割合を求めるなどの関数領域において課題が見られる。B問題においては、2つの辺の長さが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する図形やグラフの傾きの意味を基に、2つの量の関係を理解する関数の領域に課題が見られた。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱い、管理職研修会や教務主任等研修会で指導し、各校で取り組ませるようにしていく。

- 【共通重点事項】
- ・授業充実の3ポイント（「目標の明確化」「山場の工夫」「確かな見届け」）を確実に満たす授業づくり
 - ・授業の最後の10分間における「まとめ」「習熟」「振り返り」活動の充実を通じた、学習内容の着実な定着。
 - ・学力向上アクションプランの見直しとプランを基にした校内研究授業の授業研究を確実に行う。
 - ・「良問に学ぶ日」の設置、充実を図ると共に、「学力向上Webシステム」問題の繰り返しの活用を図る。
 - ・一人一人の実態に応じた、個に応じた指導の充実。

- 【国語科 重点】
- ・漢字力向上及びローマ字の習熟
 - ・家庭学習の充実を通じた読書習慣の確立（長文読解の土台の力の育成）
 - ・授業で身に付ける学習内容の明確化とふさわしい言語活動を用いた、習得と活用の授業づくり
 - ・主体的・対話的で深い学びの授業の中で、根拠を基に自己の考えを書く活動の位置付け

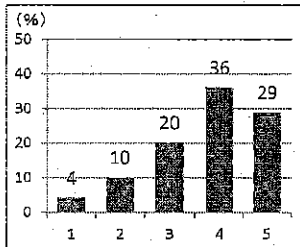
- 【算数科 重点】
- ・提示された事象や過去の学習経験との対比から課題を明確にもって、かつコンパクトな導入
 - ・授業後半の10分間における習熟の時間の位置付けと個に応じた指導の充実
 - ・図や表、グラフの表す意味を着実に読み取る力の育成
 - ・読み取ったことを基に自分の考えを表現したり、証明したりする力の育成

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

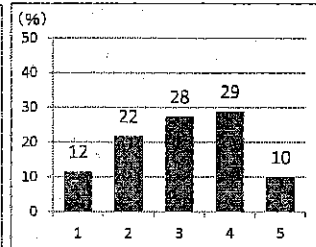
和泊町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



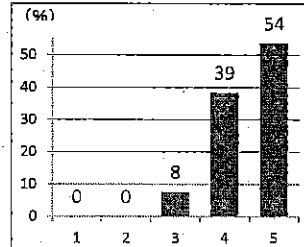
〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国平均と比べるとA・B問題いずれも中位層が多く高位層が少ない。高位層を育てる個に応じた重点的指導の必要がある。

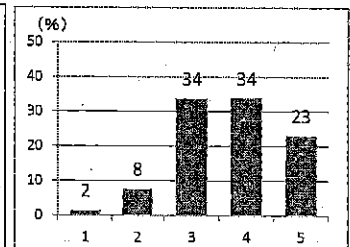
・B問題の無解答率が減少する反面、A問題の「伝統的な言語文化・国語の特質」の定着が低い。定着の時間の確保及び家庭学習等での繰り返し練習の必要がある。

【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

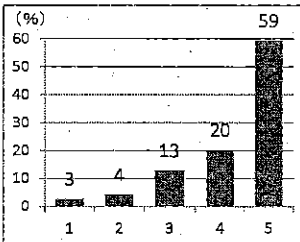


〈課題〉

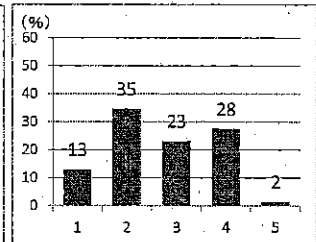
・5段階の分布状況については、全国平均と比べるとA・B問題共に低位層が少なく中位層が多い。A問題においては高位層が多く、全体の通過率を押し上げている。

・「書くこと」の力が知識・技能も思考・判断・表現もしっかり身に付いている。

〔算数A〕



〔算数B〕



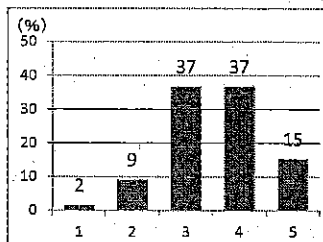
〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国平均と比べるとA・B問題いずれも低位層が多く、高位層が少ない傾向が見られるが、その差は縮まっている。

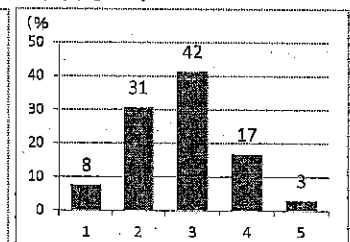
・図形の約束や性質を正しく理解した思考的操作の定着率が低く、算数的活動及び適応問題の充実・確保が必要である。

・数学的思考を要し表現する問題に対する無解答率は低くなっている。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国平均と比べるとA・B問題共に低位層が少なく、中位層が多い。しかし、高位層が少ないので、終末の時間の発展的・応用的内容の取扱い等の個に応じた改善が必要である。

・図形、関数の活用の理解・技能に特に個人差が大きく、習熟のための個に応じた指導が求められる。

【改善策】

○ 今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱うようにしていく。

〔小学校〕

(国語科)

- ・教材文の読みを言語活動と相互補完的に高める教材文の提示の工夫→ICT機器、デジタル教科書の有効活用
- ・言語事項の定着を図る時間確保のための週時程・日課表の改善及び確実な評価・見届けの実施。並びに家庭学習の量・質の確保
- ・「思考語彙」を位置付けた自分の考えを形成させる時間の確保と、他者との交流を通じた練り上げの場(山場)の工夫

(算数科)

- ・個別の評価規準に基づく、基礎的・基本的事項の習熟及び発展的内容の積極的取扱い
- ・図形領域の算数的活動の工夫及び言語活動を確実に位置付ける授業改善

〔中学校〕

(国語科)

- ・基礎的・基本的知識や技能の反復による習熟、並びに、読書や家庭学習との効果的運動
- ・学習者主体の課題設定による「分からない」を、他者との交流を通して分析・追究する時間を確実に位置付けた授業実践
- ・「授業力向上プログラム」による指導力の向上及び町中各校への成果還元

(数学科)

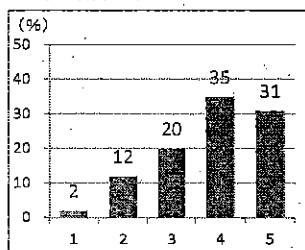
- ・個別の評価規準に基づく、基礎的・基本的事項の習熟及び発展的内容の積極的取扱い
- ・図形の性質の理解の徹底。図形や関数問題を証明する思考操作を表現する活動の重視

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

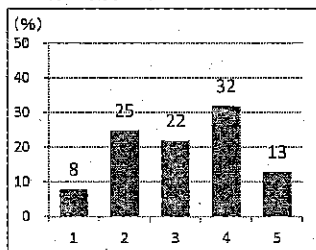
知名町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕

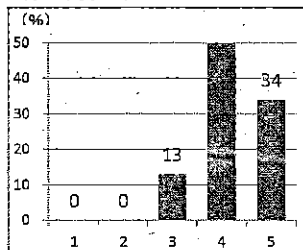


〔国語B〕

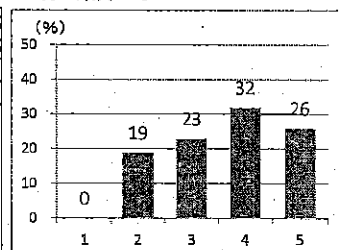


【中学校】

〔国語A〕



〔国語B〕



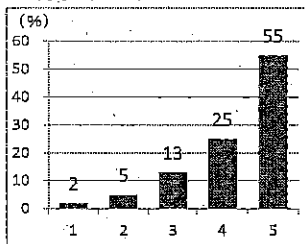
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4・5の段階は、66%だが、B問題の4・5の段階は45%である。基礎・基本及び活用する力ともに1～3の段階を伸ばしていくことが課題である。
・「話すこと・聞くこと」の領域で、目的や意図に応じて収集した情報を関連付けることに課題がある。

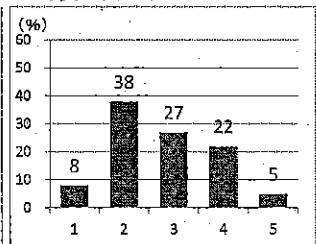
〈課題〉

・A問題では4・5の段階が87%であるのに対し、B問題では、58%である。活用する力を高めるため、個に応じた指導・支援の必要性がある。
・文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことに課題がある。

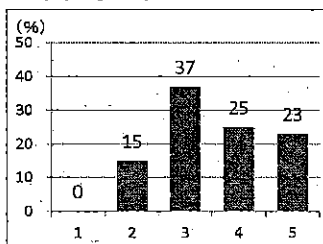
〔算数A〕



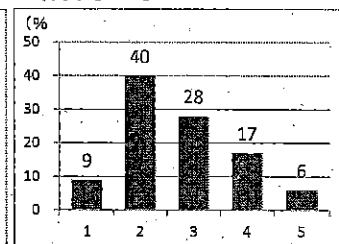
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・A問題では、4・5の段階が80%だが、B問題では、1～3の段階が73%である。活用する力が十分定着していない。
・図形の構成する要素に着目し、目的に応じて、図形の性質を活用することに課題がある。
・示された式に数値を当てはめ正しく数値を求める問題に課題がある。

〈課題〉

・A・B問題ともに、1～3の段階の割合が高い。特に活用する力の向上のため、個の実態に応じた指導方法の改善が必要である。
・与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現したり、問題解決の方法を数学的に説明したりすることに課題がある。

【改善策】

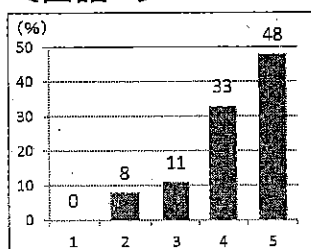
今後、下記の事項について、本町の学力向上施策の重点として取り組んでいく。
○「授業サポートプロジェクト」による授業づくりの支援に加え、町指導主事の授業サポートをこれまでどおり継続することで、本町の学力の実態に応じた授業改善が行われるよう指導・助言を行う。
○「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用により、児童生徒の課題と関連させながら定着を図る取組を充実させることを指導し、思考力・判断力・表現力を高める。
○各学校の「学力向上アクションプラン」に示された改善の方策の進捗を見届け、設定した最終目標を達成できるように指導・助言を行う。
また、以下の事項を管理職研修会等で指導し、各学校に確実に取り組ませる。
〔小学校〕(国語科) 目的や意図に応じて、聞き方を工夫したり、整理して話したりする活動の工夫や指導を充実させる。
(算数科) 理解していることを活用し、筋道立てて課題を解決する活動を充実させる。
〔中学校〕(国語科) 根拠を明確にして自分の考えを書く活動を充実させる。
(数学科) 事柄や数量の関係を文字式に表す活動や事柄が成り立つ理由を数学的に説明する活動を充実させる。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ、課題、改善策)

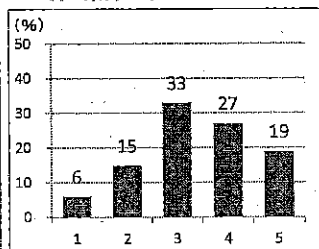
与論町教育委員会

【小学校】

〔国語A〕



〔国語B〕

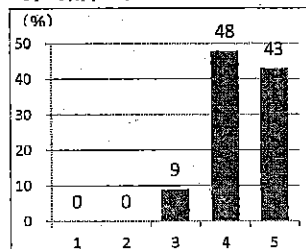


〈課題〉

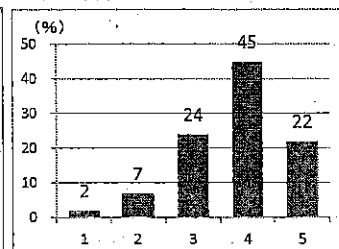
・5段階での分布状況について、A問題の4、5の段階は81%であるが、B問題では46%であることから、全体的に基礎・基本の内容については定着しているが、それを活用する力には課題が残る。
・ローマ字を書いたり読んだりする問題や分かったことや自分の考えを的確に書く内容の補充指導が必要である。

【中学校】

〔国語A〕



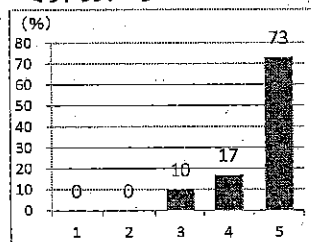
〔国語B〕



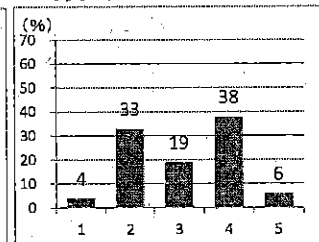
〈課題〉

・5段階での分布状況で、A問題の4、5の段階は91%であるが、B問題では67%であり、全体的に基礎・基本の内容については定着しているが、それを活用する力にはやや課題が残る。
・書き直しの仕方や根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く問題に課題がある。

〔算数A〕



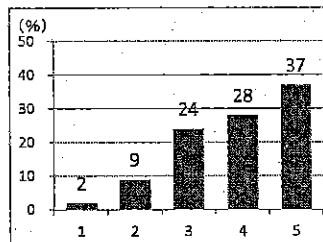
〔算数B〕



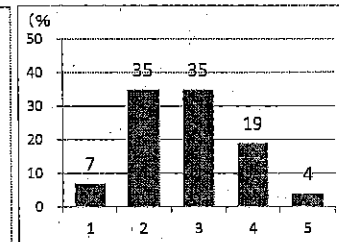
〈課題〉

・5段階での分布状況について、A問題の4、5の段階は90%であるが、B問題では44%であり、B問題の下位層もやや多いことから、活用する力に課題がある。
・百分率の問題や式や数値の意味の説明を記述する問題に課題がある。

〔数学A〕



〔数学B〕



〈課題〉

・5段階での分布状況で、A問題の4、5の段階が65%であるのに対して、B問題の1～3の段階が77%であることからB問題の中・下位層が多い。
・数学的に表現したり説明したりする問題の無解答率が高いので、表現力に課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。

- 拠点校授業サポートプロジェクトを一層充実させ、継続的な訪問を通じた授業づくりの支援や指導・助言を行う。
- 各学校の「質の高い授業」を目指す学力向上アクションプランを再度見直し、具体的な改善の方策を講じていく。
- 個に応じた学習指導を充実させるために、「かごしま学力向上支援Webシステム」を更に活用するように、各学校への指導を徹底し、見届けまで徹底する。

また、以下の事項を、管理職研修会や町学力向上対策委員会等で指導し、各学校に取り組ませる。

- 〔小学校〕(国語科) 分かったことや自分の考えを的確に書く活動の充実を徹底させる。
- (算数科) 立式の意味や解答の説明を記述する活動を徹底させる。
- 〔中学校〕(国語科) 根拠を明確にして、自分の考えを書く活動の充実を徹底させる。
- (数学科) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する活動を徹底させる。